京城日報

一月五日
(第二千九百九十一號)

發行所 合資會社 京城日報社

朝鮮と土地調査事業(二)

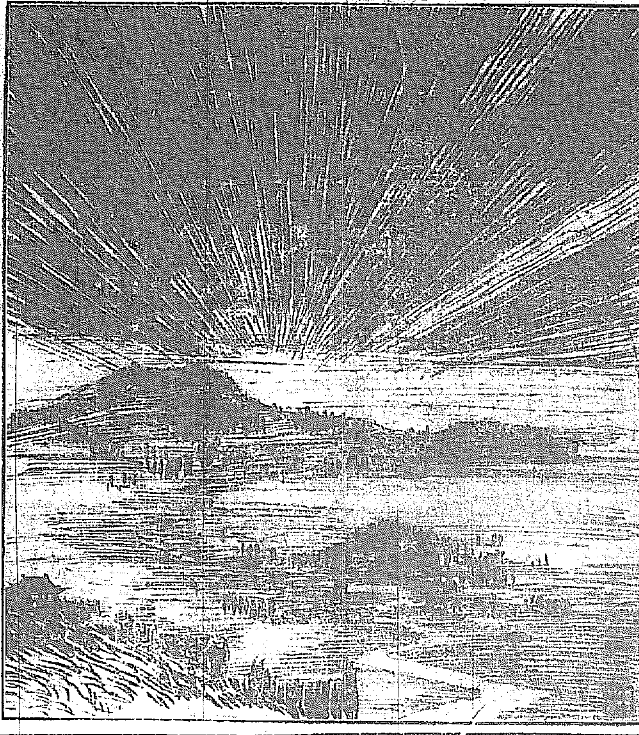
土地調査局長 鈴[illegible]談

□地籍調査

朝鮮に於ける土地制度の頗る亂雜にして土地所有權紛糾を極めしは前段に說きたるが如し今之を整理せんとせば一方に於て地籍の調査をなし土地所有權を確保し更に一方に於て其權利の保存及び移轉を明確ならしむる爲め土地登記の制度を設くるを要す抑々地籍調査とは土地の種類に從ひ地目を定め地盤を測量し境界を劃定し面積及び地價を算定し且つ一筆毎に地番を附し其の所有者を查定するの謂である、之が爲には第一國有公有及び民有を區別し民有中に付更に共有、法人有及び個人有を分つのである、如斯一面に於て各土地の所有權及び其境界を明かになすには之と[illegible]方行政區域の境界及び名稱を整理する必要があるのである此事は朝鮮土地調査の一の特色であつて亦同時に其利益である、元來朝鮮の洞里には正確なる境界がなく人民自然の集團に伴ひ種々の關係から大體の區畫をなしたるに過ぎないので實地に於ては極めて曖昧になつて居る、從て部落の勢力又は所轄官廳の權力の大小に依て時々變更することもあるし、飛地なども少なくない、又一里洞の面積甚だ狹少にして內地の小字位のものもある、又里洞として將來獨立することの出來ぬものが多いのである、蓋し里洞境界の明確を缺ぐは延いて面又は郡等の境界を不正確ならしむるので諸般行政上頗る不便とするところであるのみならず前述の如き地籍の整理上にも亦大なる障碍となる次第故、土地調査に伴つて先づ里洞の境界を整理し小里洞は之を合併し其名稱をも新たに附するのである、例へば京城市街中に於ても一區域に對し朝鮮在來の名稱に種々異るものあり又元居留民團に於て附したる名稱あり諸所公定の名稱及び通俗の名稱等種々ありて何れが正當なるや殆んど甄別することが出來なかつたのであるが、所轄官憲の苦心の結果今日の如く町、通洞等の區劃を明かにし且つ其名稱の一定せられたる次第である、如斯行政區劃の境界及び名稱が土地調査に伴ひ整理せらるゝのであるが故に悉く全道に亙り土地調査の完了する曉に於ては郡、面、洞里の區域、境界及び名稱等總て整然として明かになる譯である

▽地籍調査の內容

今少しく地籍調査の內容を述ぶれば第一、地目を決定することにして、從來の稱呼の如何に拘はらず土地の實況に依り之れを田、畓、垈、池、沼、林野、雜種地、社寺地、墳墓地、公園地、鐵道用地、水道用地、道路、河川、溝渠、堤防、城堞、鐵道線路及び水道線路の十八種に分つのであるが、道路以下七種の土地を除き他は總て所有者を定むるのである尤も林野は前掲各種の土地の間に介在する小面積のもの丶外は總て調査又は測量をなさないのである、而して土地所有權の決定は主として地主の申告に基くのであるが故に地主の中其所有地の申告を怠るものは往々土地を喪失する虞があるのであるから此點に就ては一般地主の大なる注意を喚起したいのである、從來の實例に依るも地主にして自ら申告を怠り之が爲め遂に所有權を失ひ回復すべからざることになりたるもの少なからざるのである、尤も土地調査局に於て所有權の査定を爲したるときは土地調査簿及び地圖を土地所在の府郡廳に備へ三十日間公示し一般の縱覽に供するので之れに對し若し不服ある者は公示期間滿了後六十日內に高等土地調査委員會に不服の申立をなし其採決を求めるのである、萬一前述の期間を過ぎたるときは最早何等の申立を爲すことを得ずして土地所有權は曩に公示せられたる通りに確定し動かすべからざるものとなるのである、換言すれば土地所有權の査定以前に於ける如何なる事由を以ても之を援用して其の所有權を主張することが出來ないのである(土地調査令に於ては特種の場合に再審の申立を認め居るも今之を省く)



曙光　前川千帆筆

▽地籍圖と臺帳

右の如く土地所有權の調査をなすと共に全國に亙つて三角測量及び圖根測量を行ひ之を基礎として各一筆地の測量をなし正確なる地籍圖を調製するのである、即ち朝鮮全土に於ける重要なる地點の經緯度を測定し之に依て每筆地の算定をなすものなるが故に右の如く調製せられたる地籍圖は實際上に於ても將來學問上に於ても最も精緻なる物と言ふことが出來るのである、而して地籍圖には地番、地目、面積、境界及び隣地との關係を最も正確に表示し之を基礎として更に土地臺帳を作製するのである即ち臺帳には地籍圖に揭げられたるもの丶外所有者名土地の等級及び地價を登錄してある要之此の地籍圖及び土地臺帳の兩者を以て地籍の調查を完了したるものである

▽登記制度

右の如き順序を以て土地臺帳及び地籍圖の調製を了したるときは即ち之れに依て權利の保存及び其の移轉を確認する土地登記の制度が施かるゝのである朝鮮不動產登記令に「本令施行の區域及び期日は朝鮮總督之を定む」とあるは土地調査の完了したる地方より順次に登記制度を施行する趣旨にして土地に關する權利の保障制度は之に依て始めて完璧を期し得るのである從來の證明又は登記は土地臺帳又は地籍圖を基礎としたるものにあらずして單に當事者間に如斯行爲ありたりと言ふことの登錄に過ぎずして實際上に於ける効力は薄弱なるを免かれない。蓋し土地所有者[illegible]て所有權を決定し之が[illegible]るものに非ざるが故に權利の[illegible]して缺點ある次第である、今[illegible]地調査に伴ひ完全なる登記制度[illegible]行を觀ると言ふことは司法上並[illegible]經濟上非常なる利益であつて從來[illegible]如き土地に關する無用の紛爭を[illegible]し又土地の改良に要する投資を[illegible]せしものをして漸て土地の利用を[illegible]導せしむるに至らむことは疑なきことゝ信ず。

如斯朝鮮に於ける土地調査は地籍を明確にし土地の利用を增進し一般行政及び經濟上の施設に關し基礎を定むるの趣旨に依るものなれども更に一方に於ては土地の收益を調査し地稅賦課の均衡を圖り財政上補益せんとする次第であるからして土地收益の調査は最も重要なる事項の一となり居るにより以下收益調査と地稅の關係に就て述ぶる所あるべし

○賦得勅題寄國祝　富澤雲堂

東海之東有神州、邦基牢固此金甌、山河秀[illegible]花艷、地味豐饒嘉禾稠、皇統連綿垂萬世、長與天壤無窮際、男兒重義女宗貞、餘子愛國好武藝、臨事發揮日本魂、恰似櫻花[illegible]世界列强環睹[illegible]歐日東天子[illegible]嗚呼滄瀛之水芙蓉雪、不盡不蝕又不滅、歆[illegible]玲瓏互放光、千秋萬歲播皎潔。

松田學鷗曰　清[illegible]瑩明、見靈心妙趣。

況

市場彙聞

正米の情勢

頗る氣丈

初手合も相

謹賀新年
京城黃金町二丁目
各種毛皮鞣
及仕立其他
鞣皮類一式
並石鹼製造
和泉商行

謹賀新年
大連山縣
電話長七二〇番 九四番
福昌公司
營口新市街電話長一一番
營口出張所

謹賀新年
大連加賀町十八番地
田中商會
會主 田中末雄
電話二七八番

謹賀新年
大連浪花町二丁目
絹直輸入洋服商
合資會社 松本組大連支店
電話二六七番

謹賀新年
資本金 金四千八百萬圓
拂込資本金 金三千萬圓
積立金 二千萬圓
金勘定
定期預金 六箇月以上年四分五厘
當座預金 金百圓ニ付日歩五厘
小口當座預金 年三分六厘
銀勘定
定期預金 六箇月以上年三分
當座預金 金百圓ニ付日歩[illegible]四厘
小口當座預金 年參歩
横濱本店ノ外内外樞要ノ地ニ支店出張所代理店有之候ニ付爲替取組信用狀發行ノ御求メニ可應候
大連大山通一番地
横濱正金銀行大連支店
電話(長)二一三〇、(長)五四七、八二二
海關稅金取扱所 六七二

謹賀新年
(チイクリイタ)
攝津國灘魚崎
西倉本家吟造
登錄商標
大陸一
京城 南山商會內
荷扱所 篠田玄一
電話一三五六番

謹賀新年
本店 釜山 荒井旅館 電話七四三番
支店 京城本町二丁目 荒井旅館 電話二八八七番

謹賀新年
布袋神印
石版、活版、印刷、インキ
新聞用輪轉黑インキ
製造販賣商
印刷材料品、石版石、印刷用諸機械輸入販賣
大阪東區瓦町一丁目
本店 三木雄藏商店

謹賀新年
文武官大禮服
總督府制服
各種洋服
諸官衙御用達
京城新橋門通 美術品製作所前
三井洋服店
電話一二五八番

○領袖兵を率て貴州に到る

蔡鍔と共に雲南に入りたる某革命黨領袖は兵を率ひて貴州國境に入れりと傳へらる(北京特電)

○改元と上海新聞

周上海道尹は其の管轄内十三縣の知事に對し年號を洪憲と改められしを以て之れを遵奉せよと命じたり當地の新聞中洪憲元年を採用せるは亞細亞日報のみにて他は皆民國五年と稱し居れり(上海特電)

○貴州形勢不穩

貴州に於ける帝政反對熱頗る熾んなり廣東省方面亦頗る多端にして袁總統周圍の大官は昨今悉く逃亡して姿を晦ましつゝあり(北京電報)

歐洲大戰亂

▲危險期を脱せざる獨帝

アムステルダム來電に據れば獨帝は數箇の毒症腫瘍を病みて露國より歸還せり侍醫等は血液中の有毒物を除去して危險期を脱せしめんと盡力せしが成功せざりき病床に就ける獨帝は皇后の看護を受けつゝありて病床に呻吟しつゝ國家の大事に關する報道のみは受け居れり伯林市民は獨帝の新年の觀兵式に出馬し得ざるを遺憾とせりと(倫敦電報)

▲塞王サロニカに健在

最近自殺を企てたりと噂ありし塞耳維王は希臘のサロニカに到著されしが元氣甚だ旺盛なり(巴里電報)

▲建國丸地中海にて撃沈さる

佐世保橋本喜藏氏所有建國丸(總噸數三千二百十七噸)は十二月二十九日希臘南方クリート島附近に於て獨潜航艇の爲め撃沈せられたるが同船は英國ロイド保險組合に三十五萬圓の戰時保險、東京海上保險會社に十一萬圓の普通保險を附しありと尚ほ船客乘組員等は皆無事にして船長丸本常助氏以下四十二名の留守宅は皆大阪に在り丸本氏は夫人一枝子との間に八歳の女子あるが主人の無事なるを非常に喜び居れり(大阪特電)

▲ペルシヤ號無警告撃沈判明

華盛頓來電に曰く米國々務省の探知せる處に依れば汽船ペルシヤ號は無警告にて水雷を發射せられ五分間にして沈没せるものにして乘り合せ居たる雅典駐在米國領事マクネーレー氏は溺死せりと(紐育電報)

▲米國民最惡感情を懷く

ペルシヤ號撃沈に對し

ペルシヤ號の撃沈は米國々民に最惡なる感情を懷かしめたり國務省はアンコナ號事件の交渉の無事解決し墺國政府が其の潜航艇及び水雷艇に對し非戰闘員を移乘せしめたる後にあらざれば商船を撃沈せざる樣命令を與ふべき充分なる時日ありたるに拘はらず今日ペルシヤ號事件の如き明白なる暴行を敢てせしめたる以上は新なる外交的行動を開始すべくアレキサンドリア駐在米國領事はペルシヤ號撃沈に關して國務省に迅急なる報道を送るべき樣命せられたり(紐育電報)

▲英艦撃沈

倫敦來電に據れば英國巡洋艦グレンガイル號は撃沈せられ約百名は救助せられたり(紐育電報)

▲建國丸撃沈別報

建國丸の撃沈せられたるは八阪丸と同樣地中海にして獨潜航艇の地中海にあるもの二十隻に達し英佛艦隊の彊を以てするも彼の兇暴を如何ともする能はずと(東京電報)

水越鮮銀理事試筆

○安達接伴員語る

露太公來朝に就て

今回御來朝の露國太公接伴員安達特命全權公使は安東縣に向へり汽車中に訪問の記者に語りて曰く、今回の御來朝は純然たる露國皇室の使命を帶ばせらるゝものにて他に何等の意味無し大正皇帝の御代に入り最初の來朝の外國皇族の最高位の方なれば善美を盡し最大の尊敬を以て接待せられ、我國にて地位名望識見閲歷官等高き寺内朝鮮總督を接伴員こしたるに就き駐日露國大使は非常に感謝の意を表し居たり八日釜山に著、九日三ケ濱假泊、十日神戸著の豫定にして御召艦鹿島は舞鶴港にて舊臘來灰鼠色に塗變へ宛ら新造の如き美觀を呈し四日早朝拔錨佐世保に在る艦島と共に六日釜山に到著す可しと

○宮中政始式

天皇陛下には四日午前十時宮中西一の間に出御新年政始式を行はせられたり右に付き波多野宮相、尾崎法相、武富藏相、河野農相、加藤海相、高田文相參内始式を待ち奉る、天岡内閣書記官は御前に進み臨時神宮祭主久邇宮多嘉王殿下より奏上にかゝる昨大正四年神宮御恒例祭典並に臨時御祭典總て御滯り無く遂行せられたる旨奏上し次で各官廳の政務を聞しめされ閣員最敬禮中に入御あらせられたり(東京特電)

○入洛の李王世子

三日入洛の李王世子殿下は大禮式場等を拜觀し次いで桃山御陵參拜し四日午前歸東せらる(京都特電)

○李王世子歸京

大禮御式場御覽の爲め京都に成らせられたる李王世子殿下には四日午後八時歸京あらせらる(東京特電)

○澁澤男等歸朝

曩に渡米したる澁澤男及び山脇桑港博覽會臨時長官は四日午前七時横濱入港の地洋丸にて歸朝したり(東京特電)

○釜山消防出初式

消防出初式四日午前八時釜山警察署前に集合し署長の訓示ありて後市内各所にて演習を行へり(釜山特電)

雜報

○總督府御用始

總督府にては例年の如く四日午前十時より御用始めの式を擧げたり此日各長官、局長、勅任技師、各課長等十時の振鈴を合圖に總督室に參集寺内總督執務開始を宣し政務總監代理石塚長官々吏服務律並に服務心得の朗讀ありて式を閉ぢたり又試補、判任官以下雇員等は十一時より一同第二會議室に集合し前同樣の次第にて式を行ひ正午散會したり

○各官廳御用始

總督府以外の各官廳にても四日午前十時より御用始めの式を行ひ各員一同夫々の所屬長官室に集合服務心得を朗讀し約三十分の後散會せり

○總督邸新年宴

新年宴會は既記の如く五日午後三時より龍山總督官邸に於て擧行の筈なるが當日の參列者は總督府並に所屬各官署長官、局長、課長は勿論各國總領事、領事等無慮二百餘名に達す可し

○新年宴會と休廳

五日は宮中新年宴會當日に付一般官廳は何れも休廳し翌六日より平常に復し事務を執る可し

○駐箚軍陸軍始

朝鮮駐箚軍にては恒例に依り來る八日の陸軍始式日に午前九時より龍山練兵場に於て觀兵式を擧行する由なるが當日の式參加部隊は步兵三十五聯隊、騎兵、砲兵、朝鮮步兵隊にして之が指揮官は步兵三十五聯隊長大立目大佐なりと尚當日は川村第九師團長、古海軍參謀長、岡本參謀長以下軍司令部の幕僚全部出場すべしと

▲大神宮の元始祭

仁川大神宮に於ては三日午前十一時より久水府尹氏子總代其他有志參列し嚴肅なる元始祭を執行したり

○大邱新年拜賀式

大邱に於ては一日午前九時半より十時半まで慶北道廳樓上にて官民一般新年拜賀式擧行御眞影前には李慶北道長官、中參與官、入澤第一部長扈從し混雜を避くる爲め第一道廳、府廳、慈惠醫院職員、第二裁判所職員、第三陸軍職員、第四警務部職員、第五大邱監獄職員、第六郵便局職員、第七鐵道局職員、第八農業學校職員、第九右以外各官廳職員、第十一般人民の順序にて嚴肅裡に拜賀を了せり

○安達公使入京

露西亞公使安達峰一郎氏は露國ミハイロウヰッチ太公殿下接伴の爲め五日朝南大門驛著汽車にて入京、朝鮮ホテルに一泊の上六日朝長春に向ふ可し

○市原公醫赴任

昨秋本社開催の家庭博覽會囑託たりし市原熹氏は其後總督府醫院宝谷博士の下にて指導を受け居りしが今回朝鮮總督府公醫を命せられ三日咸南長津憲兵隊附として赴任せり

人事消息

[illegible]

仁川の新年

▲大神宮歲旦祭 大神宮に於て一日午前十一時より歲旦祭を執行せるが雨天にも拘らず參拜者百名以上に達し頗る盛况に行はれたり

▲府民の拜賀式 仁川府廳にては一日午前十時廳員一同の拜賀式を行ひ引續き府尹は同十一時迄一般拜賀を受けたり

▲各學校の拜賀式 各學校にては何れも午前十一時より拜賀式を擧行し終つて各校長より年頭の覺悟及び今上陛下御聖德の一般に就き訓話を爲せり

▲軍人會の遙拜式 帝國在鄉軍人會仁川分會にては同十時より日本公園に於て遙拜式勅諭拜讀式を行ひ式終つて園内繪馬堂に於て祝賀會を催したり

▲名刺交換會 新年名刺交換會は既報の通り一日午後一時より仁川ホテル樓上に於て催されたり定刻立食の卓に付き一同の席定まるや奧田會頭發起人を代表して一場の挨拶をなし終つて會頭の發聲にて天皇陛下の萬歲を三唱して一同乾盃し

○南浦商議成立

鎭南浦新商業會議所の創立に關する定款並に豫算案は臘末に全部議了し盡し既に清書をも終りたるに付本春匆々總督府の認可を受くべく其筋に進達する由なるが評議員數は總員二十四名にて内地人十八名朝鮮人六名若くは内地人十名朝鮮人七名とすべしと(鎭南浦通信)

□本日 十六頁

除夜感懷 稲藤四郎介

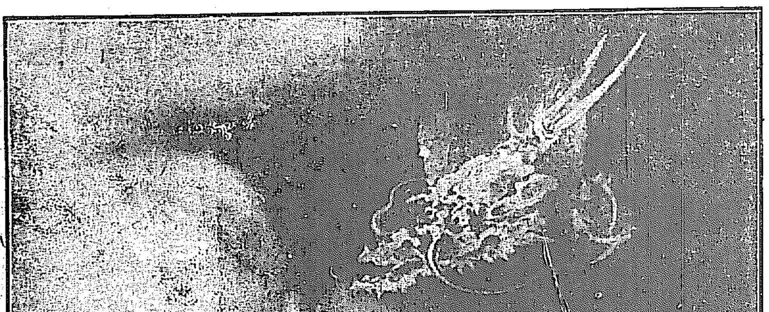
世事唯須付俗歌。任他天外尚干戈。十年書劍風塵客。一夜燈前感慨多。

丙辰元旦 宮路宗海

百歲人生一夢中。烏飛兎走太匆々。吾儕自謝齡猶壯。便指己爲華甲翁。

新年吟

○初詣戻り鷄など渡し居る 浮碧樓
○母船著きて荷揚げ焚く朝の初東風や 青負天
○初鷄に啼き眞似ぬ雛一聲を 浦登
○勢ひも河岸に見る初荷大伽な 野池
○男の子まげて妻晴々やおらが春 琉璃壺
○樹無き庭我に廣しや初日影 橙子
元日口占
大正五爲すある年の初日かな 大塊
同
雨の辰此初春を登るかな 虎耳
初夢
初夢や地球に七五三張る國 虎耳
江口虎耳君の初夢の句を讀みて
蓬萊や注連張る夢を夢にせで 大塊
○屠蘇の醉香もつれるたる慚愧哉 芙蓉



谷口香嶠筆

○明日休刊

六日は新年宴會翌日に付定例休刊

○夕刊休み

本號は別に夕刊を發行せず

賀正
小間物化粧品 糸物類雜貨商
朝鮮京城旭町一丁目
山本繁次郎
電話二〇五番 振替口座京城一二三五

野に! 山に!! 今や狩獵期は熟せり

自轉車と銃砲火藥は弊店に御用命被下度精々勉强可致候正價表御申越次第進呈仕候
京城明治町一丁目(電話三〇二番)
瀧川銃砲自轉車店
支店 太田春日町

謹賀新年
京城明治町
浪花館
館主 西田嘉三
電話一二六〇番

朝鮮寫眞畫報
□新年號□
▲一冊三十錢 ▲半箇年一圓七十錢 ▲一年三圓三十錢
▽高句麗時代新古墳壁畫の靑龍……一二
▽御大典參列の李埈公殿下と其の邸宅……三
▽新春の京城市街……四
▽京城神社のお正月……五
▽京城内地人有志婦人主催白耳義國寡婦孤兒救濟慈善音樂會……六
▽白岳山の兎狩……七
▽朝鮮の名畫石敬の龍と高麗時代の鏡……八
▽景福宮勤政殿天井の双龍の彫刻……九
▽京城南山漢陽公園の雪景……一〇
▽金澤寶生流の能樂……一一
▽狩野常信筆の龍……一二
▽辰年生れの紳士……一三
▽辰年生れの令孃……一四
▽辰年生れの坊ちゃん孃ちゃん……一五
▽辰生れの京城藝妓……一六
▽叙勲されたる朝鮮民間の二名士……一七
▽全鮮農學校長會議の會合……一八
▽蔚山城跡……一九
▽寒林二題……二〇
▽南鮮の名刹通度寺の境内……二一
▽京城日報社の大火……二二
▽朝鮮名物妓生の舞姿……二三
▽辰年のお正月松の内と京城美人……二四
▽朝鮮風俗……二五
發行所 京城大和町一 朝鮮寫眞通信社 電話二二六九 振替京城二五二

謹賀新年
群山本町
朝鮮銀行群山出張所
電話一二番

大阪株式特電 大阪期米特電 人氣 三十錢安 十三圓五十 天氣 曇り後晴れ 一月四日

歡の灯影ぞ榮えて

綺羅の香漂ひし總督官邸の晩餐會

寺内總督の新年晩餐會は三日午後六時半より龍山官邸で催された招を受けた、來賓は李王同妃兩殿下、李埈公同妃兩殿下を始め文武高等官實業家及び同夫人等男六十三女廿三合せて八十六人午後五時半官邸正門の鐵扉は八文字に開かれて十數本立て列ねた五百燭光のアークライトは波形に掃きたる盛砂を照して白晝のやう、同四十七分、一臺の自動車は音もなく正門を入るよと見る間に馬車廻しを廻りて大玄關に停車し陸軍大將の正裝した寺內總督が立花總長、森武官、大藤副官等を隨へて下りるやがて、英國總領事同夫人、李完用伯、井口軍司令官、原田朝郵社長等或は嚴しき軍服姿に或は蕭洒たる燕尾服姿に、さては天降りたる女神かとも思はるゝ美々しき夜會服の各夫人令孃なんども交つて來賓の馬車は絶えない。やがて六時廿九分李王同妃兩殿下は金紋黒塗の二頭馬車、李埈公同妃兩殿下は自動車にて到着されたのを殿に全員打揃へば各階上の控室で小憩、斯くて六時四十五分劉喨たる李王家音樂隊の奏樂裡に食堂は開かれ一同白蠟石の階段を下りて階下の大食堂に入る食堂は玉座に正面して凹字形に作られ純白の卓子掛の上には紅紫種々の盆栽又は生花を配したる間に燦然たる銀製の食器を列べたることゝて天井に吊したる何千燭光の電燈それに映じて麗しく華麗の宴も斯くやと思はする當日の主賓たる李王同妃殿下を中心として右には井口軍司令官左には李埈公同妃殿下等著座あり主人役たる寺內總督の右には國分長官夫人左には露國領事令妹著席して愈宴が開かれる饗宴の献立は羹汁より温菓に至るまで前後七種の精選した珍佳肴が運れ配盆の音フォークの響賑に宴は益々酣に入り歡談室に充ちたる頃デザートコースに入り三鞭を拔き寺內總督は來賓の健康を祝すべく盃を乾すこと三度、かくて食堂を閉し記念品を呈した上更に階上の休憩室にて少憩八時三十五分李王同妃兩殿下の退場あると共に三々五々散會した

龍山總督官邸の晩餐會場

清々しい氣持で

お正月は笑ひ樂しみます

國民の永久に記念すべき曠古の御大典を奉祝した歳を送つて又芽出度い大正五年の新年を迎へました、主人は數日間の豫定で東萊温泉に參つて居りますが毎年妾が内地でお正月を迎へますのと共れに家が二箇處にございますので

■家内一同揃つて お正月を迎へる事は極めて稀らしうございます、當家の元旦の儀式と申しましても別に變りはございません唯だお芽出度い清々しい氣持になつて家内一同お雜煮を祝ひまするだけでございます、私共は長州の生れでございますが此の

■お正月の儀式と 申しますものは日本國中何れも變りはないやうに見受けられます、其の證據には何處でも數の子があり、棒鱈があり、黒豆があり、それにお正月に附きものゝお雜煮を祝ひますからこれと申して他所樣と異つた處はございません、併し各家庭には其れ〴〵其の家の家風や習慣もございますから

■娘などには色々 申し聞かせて居りますが朝鮮では殊にお若い方許りの新家庭が多いやうでございますから隨分お困りの方もあるやうです併し當今は雜誌や割烹で御勉强でございますから皆よくお能きになります故郷の長州では昔しから殿樣が至つて御質素で被居いましたので藩士族始め一般農家に至るまで至つて

■質素な簡單な式 を擧げます、それで當家なども唯だ昔しから在來りの簡單なお祝ひを致す許りでございます、殊に近年は内地始め何處に參りましても名刺交換會がございまして學校とか神樣とかに一定の時刻に會合した上年頭の賀詞を交換する良風がございますので家婦は餘程助かるとでございます

■一船の年賀客に も方々を飲み廻つて泥酔ひになるやうな方が尠くなりましたのは結構なとと存じます(檜垣道長官夫人談)

屠蘇の醉

妾共は今年始めて京城のお正月を迎へました、當地は氣候もよろしく街もお正月らしく洵にお芽出度い新年でございます、昨年までは臺灣の臺南に居ましたが彼處は

■蚊帳から出て若水 を汲むといふやうな土地柄でございますから新年のお料理なども黎明方に拵らへて洋食の鉢に盛つておくといふ風でございました、這回京城に參つて見ますとお座敷に暖爐も焚き火鉢も持ち出されて洵にお正月らしい感じが致します上に街の樣子も春めいて見えますので一入

■新年めいた氣分に なりました併し當家の元旦は洵に亂暴なお正月でございまして重箱のお料理なども總て喜久家から屆て呉れる前例になつて居りますから一向世話はございませんが三箇日間は居の方などが來て盛んに祝つて下さいますので非常に賑やかでございます、併し考へて見ますと妾共主婦の身にとりましては樂しい

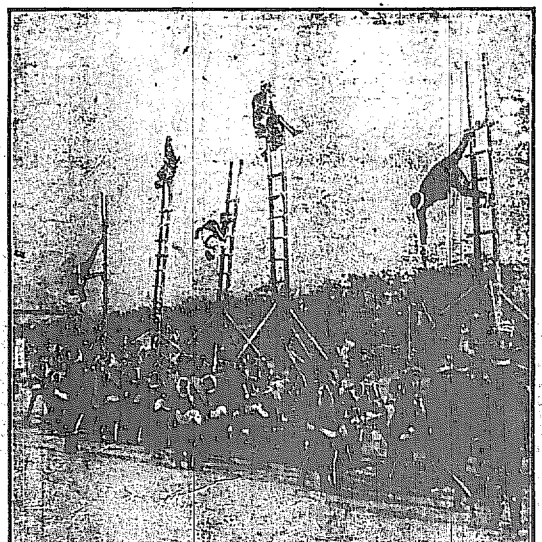
■お正月も毎日〳〵 お屠蘇を出したり入れたりする裡に過ぎて了いますので小供の時分程樂しいものでもございません、殊に歳暮の感とか年頭の感とか申しましても此の頃では一考々へ榮えのなきものとなつて了いましたから今年は斯う爲ようなどと計畫を立てたこともございません(高田三井物産支店長夫人談)

京城消防隊出初式

妙技、飛猿の如く翔鳥の如し

警務部常備消防隊及び京城消防組及び常備隊の出初式は例年の如く四日十一時より警務總監部構内廣場に擧行せられたり此の日天氣晴朗十時市中各消防所の

▲警鐘響き渡るや 警務部常備消防隊京城消防常備隊は各主任巡査引率の下に京城消防組は本町警察部引率の下に新龍山、龍山、麻浦、桃花洞各消防組は龍山憲兵分隊員これを率ひ蒸汽喞筒、輸送馬車、機械梯子水管馬車、腕用喞筒、輸送車水管車、旗、纏、梯子等を持ちて勇ましく各部署を出發十時三十分廣場に參著したり、今日を晴れと新裝の消防衣を誇りて整列せる各員は秩序整然として蒸汽喞筒、纏なんど金色燦然と春光に輝やける壯觀眼を奪ふ

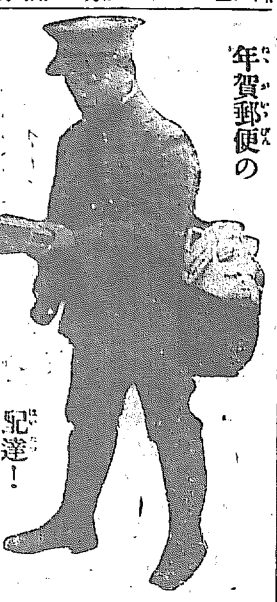


京城消防隊出初式(警務總監部構內廣場にて)

かくて定刻となれば寺内總督は立花總長、森武官、大藤副官等を隨がへ

▲消防手の吹奏 ろ劉喨たる喇叭に迎へられて臨場、これより更に喇叭を合圖に開式指揮官萩原中尉人員器具の報告の後、總務部長は指揮官並びに各隊署長を隨へて點檢し終るや消防演技に移り京城、龍山、新龍山各消防組の梯子乗あり各組より二名宛出演、猿の如く飛鳥の如き離れ技を爲して喝采を博し次ぎに小熊主任警部指揮の下に常備隊、京城消防組常備隊喞筒射務を務したるが百尺餘の竿頭に吊せる目標に向つてホースを向くれば忽ちにして之れを破り中に隱しありし小鳩五六羽の驚き慌てゝ飛び出すあり更に數條のホースよりは赤青黄に彩色せる水龍飛騰して

▲空に五彩の虹を 描き出すなど何れも大喝采を博しそれより渡邊警務部長の點檢の結果の批評及び訓示と立花總長より昨年に比し消防成績は良好となれり殊に總督府醫院京城日報社の火災に際して特にその優秀なる技能を發揮せしものゝ如し更に努力奮勵すべしとの意味の訓示あり且つ各隊組に目錄を授與し十二時閉會したり



仁川消防出初式

仁川警察署にては例年の通り四日午前九時より府廳構内廣場に於て消防出初式を擧行したり先づ松元署長人員及び消防器具の檢閲をなし終つて式署長の訓示久水府尹の挨拶ありて式を終り一同大神宮に參拜しそれより常備消防手は元水族館跡に於て放水競技を演じ豫備消防手は例に依り市中を練歩き梯子乗りの曲藝を演じたり

□春の悦び

粒の揃つた浪花節

■元日からお降りのあつたわけでもあるまいが何處を見ても上々景氣のお正月、よろづ人の出と共に天氣も麗、明けてめでたい初春興行いづれの寄席劇場、活動寫眞も繁昌いい氣だといふ、その景の割りに大なるにこみ上て來た浮れの鳥、浪花節は鄙界遊三一行の郎の細い方へと迎んで見る

■元日以來夜かけての打通しに何ほ入り切れぬ大入滿員、吾輩の見かけも小稀の芽と踩みされた三日の晩まで引つゞいての札止、若遊三時代に培つたその芽が伸びたか名人遊三の二代目を圓いで一本立となつたその餘慶か、どうやら席亭な壁間立ながら渤時を得た春の喜び、一座の者の顏色の晴々しいのは此の夜久した張りで叩いたお披露ひと共に嬉しいものゝ一つであつた

■悦しいと言へば席主の心意氣か、拔劍他の鏡戸には錦繪を張り、劇場から案內女に至るまで紋服の揃ひ身に鳥田を揃へたのは如何にも高尚然かも恭らしく鳥渡思ひつきだと手を拍つたのは故へて吾輩ばかりではあるまい。さて本題に入るに先ち斷つて置くのは居催機嫌のどろん亭で段且つ聞いた吾節の危なさ、雛かいさところは御勘辨願ふも双方の爲、まづはざつと乘興みにかゝる

■今度の一座は珍らしく粒が揃ひ取つきの前座からして貫のある聲を氣を入れしてゐるのが誰にも快く感ずる。内遊三郎、正之助、春樂、遊玉、遊三は古い馴染とかにツと笑つて現はれる度に「イヨー待つてました」と大向ふから。これに氣を得てかゝれば聞とは言ひ條人間の通用にもならなければ投げてかゝるなどの氣はさらく無く調子がついて孰れも大出來、聞いて初めてのお見得のおりは意表によかつた、三尺坊、四季の花……(以下判讀困難)

(五郎生)

◎守備隊軍曹伍長を銃殺す

安奉線遼山關獨立守備第四大隊第三中隊附寺澤軍曹は警備區域なる鷄冠山兵舍に於て十二月二十九日午後八時同隊附乾伍長と何事よりか爭論せる揚句叱嚀に軍銃を執つて一發の下に乾伍長を銃殺せる騷ぎに直ちに憲兵官駆付けたるが加害者寺澤軍曹は神色自若として「僕は邪魔を拂つて遣つた」と空嘯きながら悠々と縛に就きたりと云ふが原因は目下取調べ中にて不明なり(奉天電)

◎獨逸俘虜逃走

久留米獨逸俘虜パルンハルトサック(三二)は二日夜逃走し目下關門地方警戒頗る嚴重なり(門司特電)

▲俘虜逮捕 二日夜逃走の久留米收容所獨逸俘虜三日夜久留米市外にて逮捕されたり(門司特電)

◎自轉車の衝突

一日午後八時頃京城蓬萊町四丁目二十四番地力役(二八)は南大門通五丁目を南大門驛より南大門に向け疾驅の中折柄龍山漢江通四番地森山兼次郎が三歳の女兒を背負ひながら通行中に衝突し女兒は頭部に强か打撲傷を負ひ[illegible]

◎南山麓に溺死

京城南山麓の溜池内に住所氏名不詳推定年齡三十歳位の内地人男溺死し居るを二日午前六時頃發見したるものあり届出に依り本町署より檢屍の結果[illegible]

◎おえん逝く

京城券番の藝妓桃太郎の養母にて妙齡の頃京都祇園の名妓として謳はれたる田中えんは宿痾にて南山町の自宅に療養中なりしが四日午前九時長逝せり享年七十五

◎朝鮮公論發賣禁止

朝鮮公論一月號は其筋の忌諱に觸れ發賣禁止さる

のぼろ展覽會を觀る

一般に若々しい氣分が漲つて、何物にも拘束されないと云つた樣な筆致に前途のある人であると思はせた、油繪では「落ち陽」「灰色の路」の兩幅は輝しい光に、技巧は陣棟の緒つてゐるのを見てゐたが、水繪では「秋の庭」が明い淸涼いた色と構圖に於ていゝ作だと思つた、その他「趣の客」「南大門」の無難作ら一の乾いた光線の中にも作者の才の閃きが見えてゐた、パステルの「勸草花」や「いのり」は小品のものと云つてよからう、三十餘の出品中には隨分と行くとして可ならざるなしの技能を見せた素人臭い作品もあつたけれども兎に角之れから大いに伸びやうといふ意氣がどれにも現はれてゐるのは嬉しかつた、会場にカフェーエビスを選んだのは場所として中分ないが、出品者には物足らぬ所に行つた人と一所にされる不便のあるのを遺憾に思つた、會期は五日でお仕舞だ

山本梅崖、柴山國太郎對詐欺

無罪でありました

日頃御愛顧被下諸賢に告ぐ

篩工 和田一海

◎國風一味會

近時風潮の下向に對し某々有力家等によつて國風一味會なる會合組織せられ來十五日午後三時より南山町小口氏邸にて第一回開會の筈なるが會員は主義主張を問はず卑怯なる所爲をなすべからず總て男らしかるべしと云ふにあり出席者は何人たりとも歡迎す但し國風一味限り時寄の事會費不要酒肴は會場にて用意の事出席者は一月十二日限り山口氏邸に申込むべしと

◎小兒を轢斃す

龍山元町酒具職組本方店員中島賀造(一四)は三十一日午後三時頃南大門通五丁目を停車場へ向け自轉車にて降る途中折柄御成町五十一番地の李德元子供老馬(七つ)が道を横切らんとしたるより同人に衝突し右眉の上部に負傷せしを附近に居合はせたる若草町荒井牧場の集金員佐々木某が氣の毒に思ひ直ちに南大門通五丁目のセブランス病院に連れ行き手當を受けしめたるり

南門當時京城本町二丁目料理人曾根德吉(二八)と判明せり

謹賀新年
土木建築請負業 並ニ諸金物販賣 煉瓦セメント石灰土管
細見傳次郎
京城永樂町二丁目(電話一〇七番)

謹賀新年
人力車業 京城太平通大漢門前 太平 電話一三三番
京城旭町一丁目 太平組支店 電話八三一番

謹賀新年
中華御料理 同樂園
鎭南浦

謹賀新年
鎭南浦三和町 貿易商 櫻井商店 電話三七番

謹賀新年
鎭南浦料理屋組合
玉屋 大[illegible] 朝日館

賀正
鎭南浦府立病院 院長 近藤郁太郎

謹賀新年
朝鮮總督府特許 度量衡器修理 專賣特許 猪飼式輕便ポンプ 特許官衙御用 手販賣 各種衛生御用達 建築並銅鐵葉細工受負
朝鮮鎭南浦三和町 和田末樹商店 電話三十七番

謹賀新年
中華御料理 同合樓
鎭南浦

謹賀新年
中華御料理 鎭江樓
鎭南浦

謹賀新年
御旅館 明月館
鎭南浦
本年も不相變御引立を願上候

下關期米 十二月限解合に付き下關取引所は市場の請求に依り當取引所臨時立會休止

△磐入(?)非休日中約三千餘俵 氣配大阪期米安さに米安にて多少安く剝なるも年前中商談行はれず △大豆入津少なし出來物は殆んど倉入品にて賑肥年末の思眼を受けて

南大門の廻米 二日分 島山白米二〇二叺 金村 [illegible]二〇〇叺 島山白米二七叺 島山玄米二八叺

四日分 仁川白米五〇叺 全羅白米一四一叺 水原白米一七五叺 [illegible]

正米標準値段 [illegible]

千生瓢 (88)

須藤南翠作　筒井年峰畫

七本槍（二）

『浮足立つた味方を勇めて、一支へ支へやうとは天晴武者振。馳ふ所の敵ぢや。見參致さう』

清正は獨語きながら、籠手の紐を緊と結び、其方をさして馳せ登つた。飛郷が鐵砲頭、戸波隼人これを見て、驅け寄つて槍を扱き、只一突きと繰り出す。清正は身を開いて、ハツタと睨め著け、

『下郎！邪魔すな、罷り退け』と一喝して、腰の番ひをグサと突く。急所の痛手に暫しも堪らず、戸波は馬より撞と落つるを、清正走り寄つて首を掻き、ふり仰向いて彼方を見た。其所には山路將監正國の、來れ突かうと身構へて待つ。

清正は莞爾と笑つた。

『筑前守の側小姓、加藤虎之助清正が面、よもや見忘れはせられまい。反忠の山路將監、一槍參らう、遁れまいぞ』

大聲に名乗りかけて、片鎌槍を鋼くと引つ扱き、隙き間もあらせず突きかけた。

『やあ、珍しや虎之助、若輩者を敵にするは、大人氣なけれど、名乗りを揚げて槍をつけた上からは、將監相手になつて得さするぞ、神妙にかかれや若者』と、柄一丈穂長の槍を取直して、力鋭く突き返した。

『言ふにや及ぶ、いざ參らう』

虎之助が渾身の勇を振るつて突き込む槍尖、將監は身を開いて、えいと撥上げて繰り出だす。互ひの手練、互ひの勇氣、地を蹴々と踏み鳴らして、突いては進み、受けては開き、虚實を盡して戰ふこと十餘合、血氣盛んの虎之助が、勝昧になつて戰ふに、將監飛角受け身となつて、突き負けさうに見えたので、將監素早く飛び退り、

『槍にては勝負が埒い。いざ組う』と大音

よ虎之助』と、槍を然と投捨て、大手を擴げて突つ立つた。

『組打の勝負心得た』

虎之助も槍投げ捨て、

『生捕つたぞ、山路將監』

言ふ聲未だ訖らぬに、飛び込んで無手と組むだ。

『猪才な』と突き返して、合しとばかり四つに組む。

清正今年二十六歳、身長高く、筋骨堅く、英氣無雙の若者である。正國は三十八歳、骨太く力強く、北國にては名代の角力の最手である。拳を固め、力足を踏み、曳々聲して揉み合ふ時は、巖も碎け、崖も崩ゑ、谷も震動するばかりである。

正國は組み合ひながら考へた。

『乃公は筑前守に取つては、反忠の二股武士とも思はれやう。今この若者に生捕れて、彼が陣に牽かれる時は、散々に辱しめられて、嬲刑に行はれるは知れた事ぢや。孰方にしても今日を最期の命であるから、此若者を捻ぢ伏せて、冥途の伴に召し連れくれう』

斯う思つては何うしても負けられない、是非とも捻ぢ伏せ、投げ飾さうと、滿身の力を入れて、揉み立てた。清正はまた之を堪へて何うでも之を生捕つて、主君の御感に預からうと思ふので、勢ひ鋭く寄り立てる押合ひ、揉合ふ角力の秘局、いつ勝敗の決さうとも見えなかつたが、いかなる機を見出してか、清正が一聲高く、鬼とかけた武者聲もろとも、撞とばかり正國は組み敷かれた。清正は素早く膝に引つ敷いて、捕縄を取らうとするを、正國は敷かれながら、草摺を掴んで、働らかさぬ。さらば、首級を掻かうと刀の柄に手をかけても、正國尚も草摺を引き締めて離さばこそ、却つて反かへさんと悶くので、清正も油斷なく、力の限り、締め付け〳〵するうちに、清正が兜の鉦、躑躅の枝に引つかかつて、揺れども引けども放れなかつた。

『匠ー』と呻吟つて、將監は足を伸した。而して滿身の力を罩めて、反かへさうと身を起した。あはや清正組敷かるゝよと見る時に、踏ん張つた足に土踏み崩して、將監はづるづると墜落した。清正は兜を躑躅に吊るされながら、正國に引き摺られて、身を宙に吊すのであつた。

新春劈頭
吉報に接する方は誰
ちぬやの半額
富籤日は十二月十七日
依而右日付印ある賣上票引替に一週間以內に於て半額（商品券にて）お戻し可申候
◎富籤に洩れの方に相當の景品差上可申候
京城本町二　電話八九〇番

謹賀新年
不斷の向上努力の賜は年と共に益々偉大なり
移轉披露
業務の繁榮につれ從來の營業所にては狹隘につき左記へ移轉仕候
新營業所　釜山府本町三丁目十四番地
大山合名會社
電話長九一番　振替京城九一一番

演藝案內

壽座（本町）電話五七八
切狂言 [illegible] 上使の段 [illegible]

壽館（町）電話一〇五〇
娘義太夫竹本昇大一座來る [illegible]

浪花館（明治町）電話二六〇
東京落語三遊派幹部一行 [illegible]

御成座（町）電話二九一
一月五日晝夜 [illegible]

大正館（櫻井町）電話八七三
正月元日より特別大寫眞提供 [illegible]
○香劇 桃山御殿淀君 [illegible] 加藤狂亂 [illegible]

黄金館（黄金町四丁目）電話二六三七
天然色活動寫眞株式會社特約一手代理店
○泰西神秘探偵活劇 呪の九時 [illegible]
○維新史劇 白虎隊 全三卷 [illegible]

告京城分會員
來八日午後三時京城憲兵分隊內ニ於テ瀧當支部長ノ歡送迎會ヲ開ク可成參會アリタシ會費金五拾錢當日御持參ノ事
又隈部支部長大佐ハ九日午前九時五十分南大門驛發ニテ赴任ノ筈
帝國在鄕軍人會 京城分會

謹賀新年　野田卯太郎

中學校の入學準備として讀書作文算術を教授し兼て記憶力不足の兒童の爲に心理感應術を應用して記憶力の增進と學科の嗜好心とを促進せしむ（但夜學）
大漢門前　國語普及學館

謹賀新年　黄海道安岳郡邑內　李鳳來

英國皇室御料
帝國遞信省御用
RUDGE-WHITWORTH LIMITED
謹賀新年
最堅牢、最輕量、最經濟を以て眞正なる自轉車の意義とし、品位と實益を具備するを以て自轉車使用の目的とす、此の資格を供へて萬全の物は獨り
英國ラーヂ會社製造の
ラーヂ自轉車
直輸入　東京　日米商店
代理店　京城　鐵輪業商會

特約店

京城明治町	瀧川自轉車店
靜山全州通	吉本自轉車店
大田春日町	瀧川支店
鳥致院本町	岡山自轉車店
仁川本町	河野自轉車店
海州四門內	首陽自轉車店
平壤大和町	佐藤自轉車部
鎮南浦東二	加藤自轉車店
清州本町	岡田自轉車店
木浦大和町	村上自轉車店
大邱元町	井上自轉車店
釜山幸町	井上自轉車店
安東縣市場通	逢摩商會
元山仲町	美島自轉車部
新義州常盤町	六本共社
羅南生駒町	岡原自轉車店
成興	中木自轉車店
全北金堤	鈴藤自轉車店
全北益山	伊藤自轉車店
全北江景	能見自轉車店

謹賀新年
京城東四軒町
牛乳搾取販賣業　岡野牧場
電話一〇六九番

京染悉皆商　京都たまや出張店
京城永樂町二丁目　電話二九六番

謹賀新年
滿鮮米雜穀商
北滿小麥粉代賣業
稻岡熊太郎
大連市紀伊町六十二號地
電話四二四番
振替（大連）四九〇番
電信略號（井）

謹賀新年
蒲鉾製造卸小賣商
佐藤民一商店
京城南大門通二丁目
電話取次一五四五番

尼崎汽船仁川出帆

○群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行
秀吉丸　一月七日後四時出帆
君が代丸　一月　日後四時出帆
神代丸　一月二日後四時出帆
有群山伏　一月五日後四時出帆
大東京行　九見丸　十二月廿九日後五時出帆
仁川海岸通二丁目 臨時五九番　高杉回漕部

汽船釜山出帆廣告

○門司、神戸、大阪行　文神丸　一月十一日後五時出帆
○元山、清津、浦鹽行　立神丸　一月　日後十時出帆
○門司、神戸、大阪行　小倉丸　一月四日後五時出
○元山、城津、浦鹽行　小倉丸　一月　日後十時出
○元山、西湖、新浦、城津、清津行　第三翠平丸　一月十日後九時出
○門司、宇品、神戸、大阪行　第三翠平丸　一月一日後六時出
○佐須奈、嚴原、壹岐、博多行　天兵丸　毎月二日九日十六日廿一日廿六日　午後十時出帆
釜山港埋立新町　本船取扱店　大池回漕部

共同汽船仁川出帆

西湖津沿岸各港を經て雄基行　第三共同丸　十二月　日前八時　十二月　日出帆
阿波共同丸　芝罘、大連行　十二月　日後二時入　十二月　日前九時出
第六共同丸　朝鮮國道沿岸各港に寄港し大沖にて青島行定期船に接續荷客共取扱可仕候
城津、清津、浦鹽行（元山出帆）
第一阪鶴丸（元山出帆）　十二月　日後九時出港
阿波國共同汽船株式會社　本町一丁目（電話一〇八番）
仁川代理店　山下回漕部
元山代理店　田口回漕部
京城取次店　河村運送店

大阪商船仁川出帆

○群山、木浦、釜山、關門、神戸、大阪行　須磨丸 一月十七日　天智丸 一月十三日　溫州丸 一月十日
×○木浦、釜山、長崎行　安東丸 一月　日　城津丸 一月十七日
×○鎮南浦、大連行　安東丸 一月六日　城津丸 一月十三日
◎木浦大阪行　臺北丸　一月十五日　正午出
×◎群山吳阪行　汕頭丸　一月七日
○群山、釜山、臺灣行　チョイサン丸 一月十七日　潮州丸 一月廿六日
○大連直行　潮州丸　一月廿一日
○清津、浦鹽行（元山出帆）　久宮丸 一月七日　大智丸 一月十九日
○上海、基隆、打狗行（大連出帆）　高平丸 一月十七日　新平安丸 一月廿六日
御注意 [illegible]
仁川切符發賣所　大阪商船會社仁川支店
京城切符發賣所　內國通運會社支店

日本郵船仁川出帆

○大連、秦皇島行
相模丸　一月十一日　正午出帆
三河丸　一月十二日　正午出帆
竹島丸　一月三日　正午出帆
仁川海岸町一丁目 電話十一番　堀回漕部

朝鮮郵船

京城南大門驛前 京城荷客取次店 松原運送店
全羅丸 一月三日　京畿丸 一月十三日　黄海丸 一月十七日　咸鏡丸 一月七日（門司より釜山各港寄港）　釜山發
鏡城丸 一月　日　昌平丸 一月二日　城津丸 一月四日（元山より各港經由雄基行）　元山發
平安丸 一月　日　忠清丸 一月十日　元山發
永興丸 毎月廿八回　元山發
嘉義丸 一月二日　釜山發
江陵丸 毎日　釜山發
三浦丸 一月三日　釜山發
海州丸　巨濟丸　慶尚丸　統營丸　毎日　釜山發
順天丸 三日目毎　木浦發
慶興丸 一月二日　木浦發
公州丸 一月二日　木浦發
公州丸 一月六日　木浦發
宗信丸 一月四日　仁川發
江原丸 一月　日　仁川發
麗水丸　晋州丸　一月三日　仁川發
全南丸　光陽丸　毎日午前　仁川發
平安丸 一月七日　群山發

京城日報 新年號

第二

人類學上より觀たる朝鮮

東京帝國大學理科大學講師　鳥居龍藏

私は曩に這回の旅行に於て見たる鮮人の體質、言語、習慣等に就て述べて置いたが其の他に過去の朝鮮民族の遺物遺跡に就ても多大の注意を拂つて觀察した積りである、併しながら彼の三國時代より高麗時代にかけての遺跡に就ては既に世に知られて居る事でもあり且又今更私の言を俟たぬ事と思ふから茲には遡つて其以前を語つて見たいと思ふ

有史以前の遺物遺蹟

一體朝鮮の三國時代といふのは高句麗、百濟、新羅が相爭うた時である、而して當時の忠淸南北道及び江原道の狀態は如何であつたかと言へば、此の時代は南漢山北漢山上を中心として三國が爭うて居た時である、此の事は既に歷史家及び考古學者も遺物遺跡の上から調べて居る處であつて既に其の以前の樂浪郡が西朝鮮に存在した時代のをも朧氣ながら解つて居る、其處で私は漢民族が樂浪郡を設けた時即ち漢の時代に於ける中央朝鮮に就き少々語りたいと思ふ、既に漢以前に於ては是等の忠淸南北江原三道には歷史は無いのである、即ち漢の時代迄は朧氣ながら支那の歷史を辿つて語られるが、最早や其以前となると全く歷史家にとつては有史以前（プレストリック）となつて其解らない事になつて了ふ、其處で其の有史以前の事を語るには、餘程の注意を要する次第であつて、又從來この事に就いて公にされたものが無いからこの

□三道の研究は■ ■餘程大切な事□

であると思ふ、それで私は人類學的の方法により此の方面の研究を試みたのであるが既に歷史の無い時代歷史の權威とならぬ時代とすれば唯だその土地の遺物遺跡の上から判斷するの他はない、で、這回の旅行に於ても私は到る處其材料の聚集に努めたのであるが幸ひ其材料は非常に多く且つ又大變な發見を爲し得た事は非常な幸福であつた（其の聚集した寶物は景福宮內なる總督府新博物館に陳列される筈であるから就て御覽を願ひたい）

石器時代の錦江流域

それで先づ忠淸南道の土地からお話しすれば彼處は其の中央を錦江が貫流して居る、而して古くは馬韓の土地であつて後百濟に征服されて其の領地となり今の公州の恩禮山城に百濟が移つて後熊津城を建て次で扶餘に亡びたまでは總て百濟を中心としたる舞臺であつた、併しながら斯た事は歷史家に讓つて私は茲に有史以前の錦江流域を語りたいと思ふ、然るに現今に於ても有史以前即ち石器時代の遺物遺蹟は錦江流域を中心として忠淸南道の各郡に遺つて居る、就中

□扶餘は其中心■ ■となれる土地□

である、然らば此の有史以前即ち石器時代の民族は如何なる生活を爲て居たかと云ふに先づ此の時代に於ては鐵や靑銅を用ふる事を知らず總ての利器として石を用ゐて居たのである、即ち石斧、石鏃總て皆石であつた時代であるが這回私の觀た忠淸南道には當時の遺物遺蹟が極めて多い處を見ると當時の民族は農業を知らず總て生活が自然民族の其れであつて、唯だ川の魚貝を漁り陸上の哺乳動物を捕へ、或は又山野に木の實を獲つて食つた時代である、されば當時の漁りに用ゐた不完全な網の重り石だとか其の他石斧や砥石の如き壞れたる色々な道具の遺物を見ると當時の石器製造地が判り且つ又原始的の生活が判るのである、

石器時代 墳墓の發見

然るに近頃面白きは這回私が扶餘で發見した彼等石器時代民族の墳墓である、それは公州街道に沿うた鳳凰山の麓であつたが、此處には昔の是れ等の民族の墓が多く、這回私の發掘したのは僅かに其の中の四五箇處のみであつたが中からは色々な物が發見された譯で、兎に角石器時代の墳墓を發見したのは這回初めてで頗る興味ある事である、現に私の發掘したものは其の石棺が長さ五尺深さ二尺、幅一尺四五寸の長方形のもので、石は粘板岩又は花崗石の薄い剝げ石で頗る不完全に圍んであり中の人骨は腐朽して居たけれ共、其の中央には一振の石劍が現れ又上部の傍には石鏃が三本乃至十三本位置かれてあつた、この事は我々にとつては頗る面白い事實であつて、從來朝鮮各地から出た石劍なるものは皆單獨に掘り出された爲め其れが何處から出たものであるか全く不明の裡に葬られてあつたが這回の發見により始めて

蘭　野田東拓副總裁試筆

□石劍が墳墓か■ ■ら掘り出され□

た事が判つたのは非常に有益な事であつた、又其の石鏃は通常のものよりも餘程精巧に出來て居たが、此の風習は最も注意す可き事であつて、彼の日本內地の古墳や、朝鮮三國時代の古墳から古い矢鏃、刀劍等を掘り出した事實は既に此の時代からあつた風習であると思はれる、兎に角有史以前の民族が劍を墳墓の裡に入れて埋葬する風習は餘程面白い事實であつて何の爲めに屍體と共に劍を入れるかは研究すべき問題である、這回發見した石劍は長さ一尺餘、石は粘板岩で實に精巧なものであつたが是に由つて之を觀れば、鳳凰山は當時の酋長及び其の一族の墳墓地であつたものらしく又扶餘にては當時の石劍を作つた場所をも發見したので、斯くの如く墳墓に石劍を入れる風習は鳳凰山で一度發見してから他でも注意して見た處、彼の京畿道通津にもあつたし、江華島の前の矢島其の他でも、澤山に發見したのであるが、右の如く石器時代の墳墓を發見したことは、從來

□學術上の研究■ ■に最も大切な□

る事實ならんと思ふのである、然らば此の事は獨り朝鮮のみに於て然るかと言ふに、私は曾て南滿洲の南端旅順の老鐵山上にてもこれと殆んど同一のものを見た而も山の數部に墳墓を設け、其の中に劍を埋める事が洵によく類似して居るのである、其の他石劍の出る處は南滿洲に於て方々で發見せられて居る上に、日本內地に於ても、九州四國中國地方から發見され、現に對馬國上縣郡豐崎村から出たのは總督府にも保管されてあるが、是等の事例によつて考ふれば滿洲朝鮮及び日本內地との間には互に深い關係を有するものであつて從來日本內地に於て單獨に出る如く思はれた石劍の如きも、或は墳墓の裡より出たものではあるまいか、大に注意す可きことであると思ふ、現に對馬から發見されたものゝ如きは矢張り石を積み重ねた下から掘り出されたのであるから頗る興味深き事實である、又斯の如く朝鮮及び日本內地間の關係は、獨り石器のみに止まらず、他の遺物や土器の形狀模樣等も亦、或種の類似點を有し、彼の日本の學者の唱ふる彌生式土器の如きは殆んど

□日本內地と朝■ ■鮮共に同一の□

ものである、是に由つて之を見れば日本及び朝鮮との關係は既に遠き石器時代より結ばれつゝあつたものと認められ得べく、彼の歷史家の多くが唱ふる如く、三國時代及び其の少し以前からの關係と見るは餘りに近き時代と見過ぎたものであると思ふ、依つて我々は斯る土臺の上から發見して深く研究する必要があるのである、又日本內地に於てはアイヌの遺した有史以前の遺物がある、或る學者はアイヌでなくコロボツクルのものであると言つて居る、而して是等は少し後期の石器時代のものとは全く異種類のものである、私は前のアイヌの遺物と區別する爲めに、後期のものを固有日本人の石器時代と名付けたが、斯かる事實から考ふれば既に鏃や劍を作つた以前から日鮮兩地間に關係が無ければならぬ次第である

朝鮮滿蒙 遺物の類似

一體朝鮮に在る有史以前民族の遺蹟遺物は何處のものに似て居るかと云ふに、前述の固有日本人のそれにも似て居るし尙ほ又北方にては南滿洲のものとも似て居るのである、私は先年「東蒙古に於ける有史以前の民族」なる論文を理科大學紀要に書いて、朧氣ながら朝鮮有史以前の民族にも觸れて置いたが、今回又復「南滿洲に於ける有史以前の民族」なる論文を書いて以前よりも一層朝鮮の問題に觸れて見たのである、而して是等の論文にも記した如く元來朝鮮と東蒙古及び南滿洲とは、遺蹟遺物の間にも殆んど同一の關係があつて、是等は決して偶然の類似とは認められぬ次第である、接近せる事から考ふれば、朝鮮人なるものは殆んど東蒙古から南下した民族では無からうかと思はれる程である、喩へば彼の磨製石鏃の形式の如きも、今日長春以南の滿洲各地から出るものと、朝鮮各地から出るものとは殆んど同一の形である、次に石劍にまれ石器にまれ

□其類似點は非■ ■常に多いので□

あるが、猶ほ土器の形から云つても頗る多くの類似點があつて、彼の角の如き把手の變化の工合も洵によく似て居るのである、其他高坏のある事、土器の模樣の類似等、是等は皆民族的關係のあるもので決して偶然の類似では無い、假令其の間に兄弟姉妹の關係は無しとするも猶ほ且つ血緣の關係は存するように思はれて、此の點より觀察するも朝鮮有史以前の研究には何うしても南滿洲の長春以南の土地を分離する事は能きぬ運命を有つて居る、然らば蒙古は如何と言ふにこれ亦朝鮮との關係があつて熱中赤峰、朝陽、錦州等、總て老哈河の流域に於る東蒙古一帶の土地は、總て朝鮮の遺物と全然同一である、されば東蒙古、南滿洲、朝鮮間に於ける關係は私の今日迄得た事實に據つて之を考ふれば、蒙古の老哈河流域から南滿洲の長春、開城、鐵嶺、奉天、遼陽以南より更に撫順から安奉線に沿うて朝鮮に連絡線あるものゝ如く、これは決して私の想像でなく現今此の地方に遺つた遺物により

□朧氣ながら其■ ■の道筋が判る□

のである、又此の事に就ては私の這回發表した『南滿洲有史以前の民族』なる論文にも記した如く彼の古くから此の方面に居つた濊貊の關係ではなからうかと思ふのである、即ち濊貊なる民族は、周の時代には濊貊として記述され、論語、左傳、周禮等にも現れて居る、而して周の時代には何處に居たかと云ふと今の松花江流域の南から長春、奉天鐵嶺方面にかけて居つたものと考へられるが、茲に云ふ有史以前のものは即ち周以前の濊貊であつてこれが朝鮮のものと似て居るとすれば朝鮮のものは古代に於て是等のものが南下したものでは無からうかと云ふ感じが起るのである一體周禮にも『貉在東北方、三韓之屬皆貉』といふ文句が記されてある位だから此の貉族と朝鮮との關係は餘程趣味ある問題であると思ふ

蒙古式南滿式

又遺物の上から見たる朝鮮、滿洲、蒙古との關係は畧にも述べた通りであるが、更に其の類似を評說すれば喩へば土器の把手に附けられた角のやうなものも、鐵嶺、長春及び東蒙古の老哈河流域に出る土器の把手は形甚だ大にして、朝鮮に於ける石器時代の遺物と洵によく類似して居る、然るにこれが南滿洲の大石橋から以南の地、喩へば旅順、貔子窩、金州等のものになると其の把手が非常に小くなり、殆んど元あつた處に纔かに遺つたといふ形を爲して居る、これは所謂生物學者の退化のやうにも見えるものがあつて是等は其時代を示して居る上に面白い事實が見られるのである、更に又石器の方から云へば長春以南の南滿洲にある石鏃は其石質が粘板岩の如き脊石の極めて柔かなるもので作られてあるが、一度東蒙古のシラムレン河地方を越えて興安嶺の西方に到れば、南滿洲に見る如き磨製石鏃は一つもなく、悉く黑耀石、燧石其他の玉質で作つた石鏃となり彼の日本內地に於る

□アイヌ族の古■ ■く遺したもの□

と同一の鏃となるのである、而して獨り鏃のみならず其處から出る遺物の如きも老哈河北西のものは日本內地のアイヌの遺物と類似し老哈河以東のものは南滿洲のものと同一となるのである、この點は我々にとつて頗る面白き事實であるが、私は茲に其の柔かなる粘板炭質のものを南滿洲式石鏃と稱し、日本內地のアイヌの遺物に類似せる黑耀石質のものを蒙古式石鏃と名付ける事を理科大學紀要に記して置いたのである、又朝鮮に於ける石鏃は前述の各遺物と同樣、南滿洲式石鏃の部類に屬して居るが、然し蒙古式石鏃も無いでは無い、私の見る處では朝鮮に於ける蒙古式石鏃の所在は彼の咸鏡北道城津に始まり、縮いて北方豆滿江に至れば愈よ多く、而して江を渡つて露領沿海州に至れば蒙古式のみには非ずして、其中には南滿洲式石鏃も混在して居るのである、此事に就き或人は其の內の蒙古式石鏃を古く見て南滿洲式石鏃を新らしく言ふ議論もあつたが、私は左樣に思はぬものである、如何となれば彼の城津以北から出る石鏃の如きは同一の遺蹟より此の兩種が混り合つて出るけれ共、私の數年前咸北の各所で確かめた處によれば

□其の當時既に■ ■分業があつて□

其れ〳〵其の製造場所を異にして居るやうに思はれる、喩へば蒙古式石鏃を遺した大きな場所は、彼の咸鏡北道城津の北方なる南大川の河口に在るこぢんまりとした丘陵であるが——此處は其の周圍の土地が沖積層である處を見ると昔しは一つの島嶼であつたものと思はれるが——此處には石鏃を作つた蹟が非常に多く一度鮮童をして拾はしむれば直ちに兩手の掌に充滿を集め得る程であつて、現に其の採集品は總督府にも保存してあるがこれは即ち日本內地樺太沿海州邊のものと同じく石質の固き黑耀石であつた、然るに私は斯る多くの石鏃の中にも矢張り一二本の南滿洲式石鏃を發見したので此の二つは必ず同時代の製作に係り唯だ特別に區別して作つたものと思ふのである

此項未完なれ共鳥居先生急遽歸京の爲め果さず後半は後日記載する所あるべし（高古生）

□新年　披柳

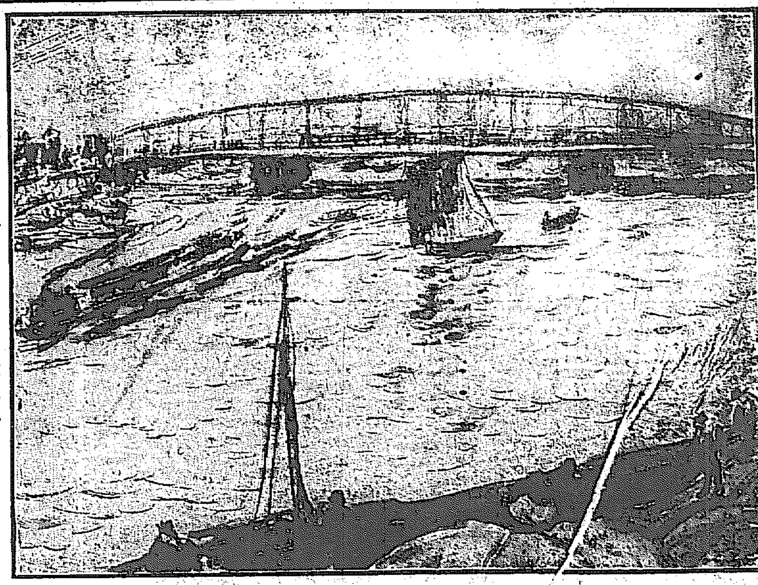
綠よごす鷄二羽と今朝の春心
厨框高過ぎを年改まりて
煙むたき厨歲旦の風容るかな
如露等納屋戶口にも改まる年
柵とりて煤染まる壁も明けの春
芝よりしのまゝ春の立つ丘を鶴
拜屋戶口へ御降りの草履飛びとに
壁よごれ反古に稼む手を御降りて
御降の寢覺めして書き仰す文
何かほしそな雀見てゐる御降りて
傘を空に振り紛る灯に御降りて

謹賀新年

於明治拓殖博覽會金牌受領
最上醬油
芳香風味　淸鮮逸品
朝鮮平壤　宮川商店　長距離電話五五番　振替京城七四番

謹賀新年
Under one management
CAFE & STUDIO
お正月には何より第一に寫眞をおとりなさい
寫眞は　親切で安くて上手な
京城寫眞館へ
電話一〇四〇番
西洋料理と西洋生菓子
設備の完全なるは云ふ迄でもなく冬期は熱湯暖房裝置ありて室內常に春の如し
御注文次第多少に拘らず配達仕候
冬期は日本室にてすき燒かしわロース等も可仕候間御引立の程偏に願上候
京城南大門通三（電話二五七一番）
カフェータイガー

謹賀新年
■精良無比の自轉車としての
輪界覇王　ハンバー號自轉車
■郵便局電信配達用としての
實用的模範車　リアル號自轉車
■輕快堅牢精巧にして名聲を得たる
實用大王　ノートン號自轉車
京城永樂町二丁目
合資會社　橋本商會出張所
神戶
本店　神戶三ノ宮町二丁目
支店　東京日本橋區二丁目



初春の河岸 石田富造筆

支那に於ける鐵道(二)

利權、敷設權、借款權の沿革

計畫の嚆矢

支那に於ける鐵道經營は、一八六三年即ち我が文久三年を以て其嚆矢となす。此年二十七の外國商館（主として英國商館なり）は連署して請願書を時の江蘇巡撫李鴻章の許に進達したり。右は上海、蘇州間に鐵道を敷設するの權利を淸國政府より賦與せられむことを請へるものにて、當時長髮賊の亂未だ猖獗と云ふ程にはあらざりしが、相應に勢威を振ひ南京は既に彼等の手中にあり、蘇州亦其の占領に歸し居たりしも、此の亂狀は早晩恢復せらるべしとの豫想を以て、在上海の英人殆ど全部を擧げて此の鐵道敷設の請願をなせしものとす。然るに李鴻章は、愈々此の鐵道を敷設することゝならんには、外國の勢力を支那に導き、支那內地にて多數の外國人を雇用せざる可らず、之れ軈ては支那の領土を侵略せしむるに至るべしとの理由を楯にして、右の請願書を殆ど顧もなく却下したり。併しながら當時李鴻章は、外人の力を藉るは不可なりとして外人の請願を斥けたりと雖、若し鐵道が支那人の手にて敷設せらるゝに於ては何等拒否すべき理由なしとの意見を有し居たりき。

上海呉淞線

當時外人間には支那に鐵道網敷設の目的を以て種々の計畫を立つるものあり、而して其の多くは英人サア、マグドナルド、スチーヴンソンの意見に據れり。スチーヴンソンは曩きに印度に於て幹線鐵道の建設に從事したる老練の技師なりき。彼は一八六四年支那に來り、精細周到に調査の後、在支外人を勸誘したりしが、外人等も亦食指頻りに動き、相連署して支那政府に說くに鐵道の利便を以てし、且つ四圍の狀況未だ支那人自ら鐵道敷設に當る能はざる所以を切論したれども、支那政府は悉く是等外人の意見を斥け、支那に於ける外國の勢力を增進助長せしむるが如き擧は一切之を許可し能はざる旨を宣明し、流石の外人も形勢非なりとして手を引くの已なきに至れり。上海の外商は請願書の却下に遭ひて痛く失望はしたりしも、全然其希望を抛つが如きことなく、一八六五年（慶應元年）にはジャーデン、マゼソン商會が、頑冥なる支那人に實物敎訓を與へ之を反省せしむるの趣意を以て上海呉淞間の鐵道を敷設するの計畫を樹て、先づ第一著手として土地を買占めたり。然れども種々の事情ありて此計畫は完成を見ずして已めり。而して上海呉淞線計畫が挫折して十年の歳月を經過したる後再び此の線路完成の計畫起り、一八七六年の六月江灣までの線路敷設を見るに至れり。その後幾くもなく、芝罘條約の調印せられ、外人と支那當局との間に種々議論の結果、漸く該線路を完成するの許可を與へられ、同年十二月一日を以て上海と呉淞とは初めて鐵路により連絡せられたり。當時支那人側は常に此線路敷設に反對を唱へ來りしが、遂に外人との間に一の取極めを了し、支那政府は此鐵道を買收し、翌一八七七年代金を交付して正式に之を引繼ぎたり。然るに上海呉淞線は支那人の手に移りたるが、購入後幾程もなくして、政府は此の鐵道を閉鎖せざる可らずとなし、軌條は引外し、機關車貨車等は臺灣に運搬して海岸に委棄し空しく風雨に曝して顧慮せざりき

新社會と新警察

警務總監部保安課長 中野有光氏談

新年の感想として別に新らしいこともないが、近年社會の進步發展の著しきに伴ひ一般社會の思潮に大變動を來し經濟上の變化など見逃すべからざるものがある殊に

▽朝鮮人の思想△

▽界に及ぼしつ△

つある影響は格別の現象であらう。內鮮人の融和混交して新らしい社會の錯雜した纏れ事や各種知識的の犯罪が釀造される吾等警察官の先づ著眼して新に施設をなすは常に此點である則ち民心の趨向と社會の風潮とを立脚地として其結果を窺知し以て犯罪を未發に防遏することに於て常に一步進みたる思想と方法とを講究して豫め犯罪の撲滅に努め公安を維持せねばならぬ任務がある以前は一般鮮人の民度も至て低級であつて犯罪も極めて

▽野蠻的な斬つ△

▽た毆つた等の△

簡單な强盜傷害事件などが大部分であつたが近年是等の犯罪が漸減しつゝあるに反し文書僞造、詐欺取財、横領等の如き知識を要する犯罪が漸次增加しつゝある、依つて是に對する相當の處置と新施設とが必要になつてきた爲めに或は近き將來に於て更に新らしき警察規則が發布されることになるかも知れぬ從來は過渡時代の觀であつたが今や新政も五年に及び一段落を告げ、今後はすべての警察行政を尙一層緻密に施すの要あることが感ぜられつゝある。此は自然の趨勢であつて

▽社會一般の進△

▽運變遷と共に△

直接實社會の警察行政も絕えず時宜に適するやうに講究されるのは當然の事である、吾等は年の改まると共に更に進むべき新徑路を見出し一層の奮勵を以て微力を盡すべき覺悟である

平壤公園

岡本更園筆

牡丹臺大公園‖練光亭大同門遊步地‖其他の設計內容

平壤府にては牡丹臺の如き名跡に富める天然の景勝地あり遠く內地に迄其の眞價を認められたる結果近時に至りては觀光の爲め來遊する者も尠からざるを以て府廳及び名勝保存會にては公園としての道路の築造著名建物の修理等に努力し出來得る限り保存と遊覽に便する設備とを怠らず一方には普く社會に紹介しつゝ有るが小額の經費にては到底理想的の設備を爲す能はず爲めに折角の名勝も世人の注意を喚起し得ざる憾あるを以て往年獨人デラランデ氏を囑して牡丹臺大公園の大々的計畫書を作製せしめ財政事情の許す秋に於て著手せん計畫なりしが同氏の設計は理想餘りに大に過ぎ實行の伴なはざるを以て今回同氏の計畫を基礎として比較的實現し得らるゝ程度に於て道路築造物の設備等を計畫し平壤市街大經營の一部として財政充實の曉を俟つて着々著手せん計畫なりとの事なり

□牡丹臺大公園

新牡丹臺下公園の工費豫算及び大體の計畫を聞くに工事費は七十九萬七千八百五十圓にして內五十六萬圓は道路橋梁附屬建設物等に二十三萬七千八百五十圓は旅館劇場其他特種建物費として公園總面積實に三十四萬六千九百五十一坪に達す可し而して該計畫完成の曉は設備としては鮮內各地の公園に冠絕し自然の風致と人工の美の相調和して其の雄大なる事全鮮に冠たり得べし公園內には延長六百四十二間幅員十間の競馬場之れに附屬する事務所料理店廐舍等あり其他延長百十九間に達する自轉車競走場工費十萬圓の動物園廣大なる植物園同六萬圓の博物館同三萬五千圓の展覽會場同六萬圓の圖書館同三萬圓の劇場二萬五千圓の舞踏館活動寫眞館八萬圓の旅館五萬圓の料理店郵便所音樂堂等あり大同江岸には繫船場を設くる等主要設計なりと

□大同門遊步地

計畫の地域內には大同門及び練光亭等中古著名の建物を抱擁し前に船橋里の古戰場を控へ遙かに牡丹臺乙密臺を望み大同江は滔々として碧を溶かし其の風光の絕佳にして眺望の美はしき眞に語に絕する者あり且つ夏時練光亭の涼味秋の明月結氷の大同江等一として詩情を洋溢たらしめざる無く殊に大同門の如きは建築學上よりも亦江面に映ずる美觀よりするも捨て難きものあるに不拘現在の狀態にては倉庫及び電話交換局等の建物あり風致を損ずる事甚しきを以て該建物は漸次他に移轉せしめ遊步地域を擴大して約二千九十四坪の面積に一萬二千餘圓の經費を以て諸種の設備を加へ夏時唯一の納涼地となすと

□本町角の大廣場

本町角の大廣場は停車場前通、本町通、黃金町通、慈惠醫院前通、道廳前通等の交叉點にして交通上樞圓形の大廣場を造り圓滑を期するは必要なるを以て長徑百間短徑五十間の大廣場を造る由工費概算二萬四千五百圓、面積二千二百七坪なり設備としては中央に噴水小築山其他を設く可し以上は平壤府市街經營として市民の要望して止まざる計畫なるを以て當局は極力之れが實現の速かならん事を期す可しと

謹賀新年 全羅北道沃溝郡瑞穗面 川崎農場 川崎藤太郎 川崎晋吉 吉川清 早坂弘 小柳一二 外一同 敬白

謹賀新年 大正五年一月一日 全羅北道益山郡咸悅驛前 光岡農場

謹賀新年 全羅北道金堤郡金堤 阿部農場 主任 奥村竹三郎

謹賀新年 全羅北道金堤郡金堤 石川縣農業株式會社 金堤支店

謹賀新年 全羅北道金堤郡本月里 桝富農場 平富榮一

謹賀新年 群山榮町 渡邊吳服店 電話三一〇番

謹賀新年 群山港本町 米穀商 花岡鶴松商店 電話三三番

謹賀新年 群山榮町 各種石鹸製造卸商 加茂屋 大正五年式として特に優良品發賣仕候

謹賀新年 群山本町 尼崎汽船部 群山出張店 電話二〇五番

謹賀新年 全北群山府本町通 眞田釀造所 電話一五二番 振替口座京城二九一番

全北益山郡五山面鶴萬里 眞田農場

謹賀新年 群山曙町七番地 大倉米吉

謹賀新年 群山幸町 精米業 三橋精米所 電話五一番

謹賀新年 大正五年元旦 群山府濱山町三番地 群山電氣株式會社 電話一五二番

謹賀新年 群山本町 株式會社 十八銀行群山支店 電話一〇八番

謹賀新年 群山港 鮮南勸業株式會社 電話三三〇番

謹賀新年 群山港 貿易商 森久商店 電話長五八番 電略(一)又八(モヒ)

謹賀新年 群山港本町 東亞煙草株式會社 群山販賣所 電話一六二番

謹賀新年 平 群山本町 群山米穀商組合 電話四九番

謹賀新年 群山全州通三十一番地 米穀商 合資會社 今井商店群山支店 電話二二六番

謹賀新年 群山府本町 米穀業 精米業 長田磯治商店 電話二八番 電略(ナガ)又八(ナ)

◎佛國軍事公債の大成功 綽々として餘裕を有すと（紐育電報）

依然自沈の止むなきに至れりと同公報は現場に英國巡洋艦…（倫敦電報）

たり巴里に於ける惡… 敵軍の占領となりたるに拘らず正貨を以て應募せる金額五十五億法大藏省小切手を以て應募せる金額二十五億法に上り

佛國の財源は尚…

…の最高有地方は…

…アムステルダム來電に依れば…驅逐艦三隻は敵を砲擊中機械水雷に觸れ中一隻は直ちに沈沒し他の二隻は敵の巡洋艦及び驅逐艦が接近せるに…

…士製紙株式會社は同地附近に於ける原料の減少に伴ひ其仕入價騰貴せる爲經營漸く困難なら…杉松を代用す可く頻りに研究を重ね居たるが御大典當時齋藤營林廠長東上の際會社代表者との間に協定成り

◎仁川仲買成績 大正四年度に於ける仁川米豆取引所…

(安東縣)

木島櫻谷筆

伯林在留追想記

面白き社會制度と法律の適用

李王職次官 小宮三保松氏談

法の適用に上下貴賤の區別があらう筈はないが其處には又社會制度の種々なる關係があつて必ずしも一視同仁的に行ひ難い事情のあるものである又さうあらねばならぬと思ふ之れを稱して法律の不公平と云ふが穩當ならずとすれば法律と社會制度と云ひたい、今其實例を在伯林時代自分が獨逸駐在中に見聞した所に依つて舉げて見たい

▲公使夫人の自轉車▽

伯林駐劄の某國公使夫人が一日自轉車を驅つて郊外に出た所が恰度官憲に於て出入を嚴禁したる場所に禁を破つて這入つたゝめ附近を巡邏中の警官は直ちに之れを捕へて交番所に同行を求め型の如く住所身分姓名を尋ねた併し夫人も直に某公使夫人なりとは名乘りかね躊躇して居つたが幸ひ知り合の一紳士其處に通りかゝり此樣を目擊して警官に對し此夫人のことに關しては全部自分が責任を以て話すにより其儘釋放されたしと希望した所警官も亦紳士を信用して夫人を解放し其後にて紳士より只今の夫人は某國の公使夫人にて決して故意に禁を犯したる譯にもあらねば此まゝ濟されたしと語つた所其警官の驚き一方ならず某國公使夫人とも知らざりしは大なる手落なりとて反つて紳士に謝を述べ更に自ら公使館を訪うて夫人に先刻の粗忽を謝した

▲示談で濟むことだ▽

これも亦東洋の某國公使館の一書記官が其公使館の使用人である十六歳の少女に怪しからぬことをしたと云ふ所から父親は非常に怒つて伯林の警視廳に訴へた丁度自分が警視廳に行つて警視と對談中に其原告者たる父が來て被告人たる書記官を嚴罰に處せんことを迫つたすると警視は曰く其樣なことは宜敷示談で以て濟む可きもので警視廳の知る所ではないと云つた樣に不得要領な回答を與へ追返して終つた、そして警視は自分に向つてあんなことを一々取上げて關係した日には大變なことになるのですからと語つたことがある

▲市税と在留外國人▽

伯林に住んで居る現住者に對する市税を在留外國人にして二三年位の所謂客住者には賦課しないことにして居る勿論税則に從へば一二年でも無税で置くと云ふことは出來ぬのであるが當局者の云ふ所を聞いて見ると二年や三年位客住する外國人に迄市税を課する樣では只徒らに外國人をして伯林は煩さい所だ一寸居つても税が掛ると云はれ結局は一年居る所も二月や半年で引揚げることになるから結局は伯林市の損失となる譯である故にそこは法の手心で以て脱税を默許すると云ふことになつて居る

▲監獄内で貴族生活▽

アーグルと云へば伯林の北方にある世界第一の監獄の在る所で獨房主義を採用して居る某日閑を得て檢事總長の案内で視察に行つた時の話である或囚人の室に行つて見ると二十疊位の部屋に而も一人の囚人はフロツクコートを(檢事長巡視の爲か)著用して其附近には四五尺位の大作物の納繪さへ數種列べられてある罪名は文書僞造と云つたと覺えて居るが官憲は之れを紳士として待遇し其得意とする技能を利用して與へて居る尚ほ獄側には葉卷あり麥酒あり何の點が囚人としての待遇かと思はれる位である併し監獄は斯の如き上流の人の生活には必要缺く可からざるものと診斷したゝめであると云ふ

大正五年度釜山財政

釜山府尹 若松兎三郎氏談

釜山府に於ては制度實施以來財政の整理を以て豫算の根本方針とし只管負債償還の實行を勉め來つたのであるが今後も此の方針は是非持續したい希望である凡そ一地方の繁榮は周圍の情況の好適なること住民の勤勉にして公共心の旺盛なる事業其の主因を爲すも公課の輕くして負擔に耐へ易き事亦

▲地方進歩の 一つの條件として認むべきである吾々が府民團當局者より繼承したる負債は第一水道事業債八十一萬一千圓第二鑿平事業債八十七萬圓第三府と學校組合に分屬する學校、病院建築及び土木費並に舊債整理費十七萬三千圓即ち合計百八十五萬四千圓と云ふ巨額であつたが之れが利子を六分とするも一箇年十一萬一千二百四十圓と云ふ金額に上り凡そ現在の學校組合の戸別割金額の二倍に近き數字である之れに元金償還額の負擔を加へたならば

▲六萬の內鮮 人に取つて實に容易ならざる金額である各種公共事業營造物の維持費等の外斯の如き負擔を爲さしむる事は地方發展を阻害する所以と信じたのである其處で吾々は前述の通り財政整理を以て最も急要と認めて豫算の根本方針を玆に置き勉めて負債償還を企行しつゝあるのである此の方針に依りて過去二箇年間に於て

▲豫算を緊縮し負債償還したる金額は年々の利子の外前述第一の水道事業債に於て十一萬四千圓(年度末迄更に元金一萬二千圓償還の豫定)府と學校組合に於て分擔する第三の負債に於て元金六萬二千圓を償還し聊か整理の曙光を認め得たるは實に之れ本府當局の保護と議員諸氏の協贊の賜として感謝する所である只其れ第二の

▲鑿平工事債 に至つては償還財源を有せざる爲め其の利金をだに支拂ひの途なく隨て債務は增加の一方にして今日に於ては引繼ぎの當時に比し十一萬六千二十五圓の增加を見たるは兎に角前任者の功績の一として唱へらるゝ鑿平工事の財政的方面の情況の悲慘の程も現出せられ遺憾限りなし而して之とても本年に於ては三十六七萬に當る土地の賣却を行ひて約三分の一の負債を減少する見込みである斯くの如き次第なるを以て吾々は只

▲既定の方針 に基き財政の緊縮を圖り負債の整理を遂行するの決心である若しも此の方針に依りて將來に進み得るならば第三の府の一般會計及び學校組合に分屬する負債は今後四箇年間に全部還了すべく第一の水道債は今後四箇年の內に三十五萬圓までに減少せしめ得る事を斷言したいのであつて猶第二鑿平事業債も三箇年に全部を償還する見込みである府の管理の局に當る者として多少の仕事をして公衆の慾望を滿足せしめたきは萬々であるけれども吾々には

▲釜山の將來 を思ふ上よりして勗て隱忍抑制して消極の方針を取りたいのである此の如き根本方針を財政整理に置くのであるが一面には周圍の發達殊に港灣改良の進捗に伴ひて必要を生ずる市街の設を無視する事亦能はざるのである此の故に過去二箇年間に於て府としては財政不相應の工事とも云ふべき草梁古舘間一等道路開鑿工事を始めとし南濱護岸工事其他幾多の土木工事を施した譯であつた本年に於ては釜山

▲多年の宿題 たる傳染病院の改良工事に手を著けて見たい希望を有して居る之れを要するに前述の負債償還を根本の方針として今後四箇年間に大體の整理を遂ぐる計畫を以て進みつゝ一面釜山の進歩發展に伴ふ必要なる仕事は勵めて之れを實行したい希望である本年は御大典後の第一年であつて

▲官民皆精勵 各々其の分に應じて努力以て國運の興隆に貢獻するの覺悟を爲すべきである吾々は釜山府の財政を健全にし繁榮の基礎を定め一般の進歩に伴はしむる事を吾々の責務と感ずるのである一般市民に於ても玆に思ひを潛め公共の爲め盡されたいものである

▲▲▲▲▲▲ 六百年來の丙辰(其二)

■靈元天皇 延寶四年、四月大雨連日止まず京都の鴨川氾濫し五條三條の諸橋皆な流る、大阪の天滿橋も亦墜つ。六月石州の津和野地大に震ふ、城壁家屋多く破壞し死傷甚だ多し。九月江戸增上寺火す

■中御門天皇 元文元年、五月國學者荷田春滿沒す。十一月。伊藤東涯卒す、年六十七

■光格天皇 寛政八年、十二月琉球國來貢す、頃年江戸に大地震あり人心恟々たり

■孝明天皇 安政三年、二月幕府始て蕃書調所を設く、箕作阮甫、杉田成卿を以て教官とす、七月米國使ペルリ下田に來り直に國書を將軍に呈せんことを請ふ。八月江戸に大風あり屋上の大石飛で雨の如し、幕府松平定保、松平輝聰に命じて砲臺を大阪に築く

橋本關雪筆

謹賀新年 群山幸町 精米穀物貿易商 森菊五郎 電話一二二番

謹賀新年 群山明治町 池田醫院 院長 池田亮貞 電話三五〇番

謹賀新年 群山府全州通 岩崎醫院 電話二四七番

謹賀新年 湖南線群山驛長 瀧野一道

謹賀新年 群山全州通り 米穀商 日高千代吉 電話二〇六番

謹賀新年 群山府錦町 貸金業 平野嘉七郎 電話三三二番

謹賀新年 群山明治町 楠田義達 電話三二二番

謹賀新年 群山全州通 呉服商 矢野三郎 電話三九番

謹賀新年 群山大和町 戸塚病院 電話一二三番

謹賀新年 群山港本町 米雜穀精米委託賣買業 大惠卯三郎

謹賀新年 群山榮町 日用雜貨商 泉商店 電話三二四番

謹賀新年 群山芦町 魚類問屋 峯松今一 電話一四八番

謹賀新年 群山米穀檢査所長 田原進

謹賀新年 群山明治町 米穀商 澤田傳松 電話一五三番

謹賀新年 群山本町通 米穀商 布井嘉造 電話二三番

謹賀新年

群山九條通 杉孝一商店 電話四〇五番

群山全州通 高瀬支店 電話一四番

群山全州通 福田又支店 電話三二番

群山全州通 檜垣孫三郎商店 電話一〇五番

群山全州通 横山與市商店 電話一〇二番

群山全州通 弘津俊一商店 電話二一八番

群山本町 中柴万吉商店 電話二四番

群山本町 不二興業株式會社 群山支店 電話四七番

謹賀新年

李王職各官省御用

英國製 最堅牢 實用 直輸入元

グロリヤ號 スヰートホーム號

京城本町二丁目 大澤支店 電話四八〇番

謹賀新年 京城黄金町三丁目二百二十五番 諸戸安太郎 電話五八四番

謹賀新年 平壤牛肉卸小賣 精肉 平壤 山田商店出張所 京城旭町二丁目 電話二一四番

謹賀新年 旅館並ニ高等下宿 京城長谷川町(朝鮮ホテル前) 中京館 金澤佐太郎 市內出入の便は素より裏手には眺望佳絶なる庭園あり

謹賀新年 堅鋼銃槍道具、柔道衣 文武官正刀指揮刀、金銀ニツケル、鍍金刀劍研白鞘 仕込杖製作並ニ修理 並ニ古刀買賣諸官衙御用達 刀屋 堀兼商店 堀勝兵衛 京城明治町一丁目

謹賀新年 龍山 彌生町遊廓組合

賀正 京義線沙里院 日鮮雜貨、小間物 食料品販賣 梅田商店 同支店

賀正 日清生命保險株式會社代理店 横濱火災海上運送信用保險株式會社代理店 京義線沙里院 藥種商有名賣藥並賣尾簇業 古田貫一 振替口座番號京城二七二〇

謹賀新年 黃海道平山郡文武面 紫谷洞加幕山 森永砂礦事務所
礦主 森永礦吉
事務員取締 森永治作
事務員 白觀欽
同 李忠一
通譯 李時厚
現場監督 田堀亥五郎
同 李餘善
同 韓成吉

謹賀新年 京義線沙里院 一心床 木村龜吉

賀正 全州 完天合資會社 電話長三七番

賀正 全州北川組出張所 阪本榮三郎 電話一四九番

賀正 公州 銀の湯 高木友之助

賀正 公州 長谷川 原田 馬車組合

病氣引籠中に付年末年始の禮を缺く 公州常盤旅館主 小島文治

賀正 在京城 浪花節 花川圓玉

賀正 桑製造 泉谷商店

賀正 公州 石澤嘉市

賀正 公州 質商 小森護一

賀正 公州 運送組込商 杉岡運送店

賀正 公州 洋服商 渡邊洋服店

賀正 公州 高等調髮師 光村理髮店

賀正 公州 時計商修繕 水島時計店

賀正 公州 洋服商 熊倉洋服店

賀正 公州 質古物商 富永仁一郎

賀正 公州 山口旅館

賀正 公州 河野旅館

賀正 公州 諸官衙御用達 雜貨商 多田商店

賀正 公州 蒔し仕出し かどや

賀正 綿類洋釘雜貨商 金行商店

賀正 公州 質古物商 安部佐太郎

賀正 公州 和洋菓子製造 渡邊菓子店

賀正 公州 酒、醬油 漬物商 大地酒店

賀正 公州 下駄商 果物 長岡商店

賀正 公州 諸紙 文房具商 梅本商店

賀正 公州 藥品 化粧品 藥劑士 小川藥局

賀正 忠淸南道報印行諸印刷 公州 文水堂印刷社

賀正 公州 材木商 杉岡延輔

賀正 公州 酒釀造 高橋酒店

賀正 公州 豆腐蒟蒻販賣 村橋商店

賀正 公州 麻真商 下駄 白崎惣一

賀正 公州 河村鐵工所

賀正 公州 肥後旅館

賀正 公州 園藝研究所 阪本藤吉

謹賀新年 忠淸南道燕岐郡廳 高義駿 岡野滿辰 石橋盛枝

賀正 鳥致院金融組合 澤熊浩

賀正 鳥致院驛 飯島一重 外驛員一同

賀正 鳥致院憲兵分遣所 藤田良彌

賀正 鳥致院郵便所 柴田又三郎

賀正 漢湖農工銀行 鳥致院出張所 兵頭泰

賀正 鳥致院 足踏式石拔精白米 並に農事經營 福永精米所 福永永太郎

賀正 農具肥料特約販賣 朝鮮煙草元賣捌所 柴田定助

賀正 鳥致院驛構内 (チ) 丸鳥運送店

賀正 鳥致院驛構内 鳥致院運輸倉庫株式會社

賀正 鳥致院本町 吉成吳服店

賀正 鳥致院 御旅館 明治館

賀正 鳥致院 石拔白米 卸小賣 岡精米所

賀正 鳥致院魚市場 中野大五郎

賀正 鳥致院 和洋諸雜貨日用食料品 白井素介商店

賀正 鳥致院醫院 古市廣之助

賀正 度量衡器商 中島隆衛

賀正 京城日報 朝鮮日報 鳥致院大取次所 杉岡恒治郎

謹賀新年 京義線沙里院 ○萬出張所 金物商 松尾芳次郎

謹賀新年 京義線沙里院 大崎寫眞館

謹賀新年 京義線沙里院 米雜穀海産物委託賣買並に 朝鮮總督府度量衡器委託販賣 (惠) 惠良睦雄 振替口座京城二一七六番

謹賀新年 京義線沙里院 各國時計販賣並修繕 勾坂時計店

賀正 柳行李製造 柳手提籠販賣 公州 牧野彌三右衛門

賀正 雜貨諸紙印刷 公州 藤澤榮夫商店

賀正 和洋酒雜貨商 公州 中柴支店

賀正 米穀商 公州 岸田勝三郎

賀正 公州 公州活版所

賀正 和洋紙諸雜貨和洋菓子商 公州 大西商店 堀米吉

賀正 和洋雜貨度量衡器商 公州 中畑彌一商店

賀正 大島式足踏防火御櫃特約 公州 小野金物店

賀正 吳服太物商 公州 牧野吳服店

賀正 小間物化粧品舶來雜貨商 公州 安田寅助商店

賀正 生そば 公州 東庵

賀正 點燈社 公州 伊藤律三

賀正 米穀商 牧精米所

賀正 鳥致院 公州地方法院鳥致院出張所 矢野文太郎

謹賀新年 御菓子 諸官舍御用 澤井舗事 澤井兵松 京城本町一丁目五十一番地 電話二六六九番

謹賀新年 全北輕便鐵道株式會社 電話一四八番

謹賀新年 鎭南浦三和町 岩本直太郎 電話三二二番

謹賀新年 朝鮮煙草會社鎭南浦賣捌所 (中) 原田仲治郎商店 電話二六一番 振替京城三一五番

謹賀新年

鎭南浦三和町 合資會社 中村組

同町 合資會社 同商業部

同町 同鐵工部

平壤壽町 同中村組支店

大同郡寺洞 寺洞 中村組出張所

兼二浦 兼二浦 中村組出張所

門司市濱橋通 合資會社 中村組

神戸市浪花町 同中村組支店

謹賀新年 鎭南浦府尹 中野太三郎

謹賀新年 京義線沙里院 阿波弘司

謹賀新年 藥品並旅印石油卸小賣商 京義線興水院 舊谷藥房

謹賀新年 京義線新幕 鐵道貨物運送業 大和組運送店 主任 竹上傳吉

謹賀新年 京義線新幕 松函石油並勝利石油特約販賣店 森久支店 組合 山本商店

謹賀新年 京義線沙里院 位田藥房

謹賀新年 京義線沙里院 廣川新聞舗 載寧、安岳、信川、長淵、興水、瑞興、遂安、楠亭 出張店 有隣生命保險株式會社代理店 報國公債株式會社代理店 年金恩給立替仲次業

謹賀新年 京義線瑞興驛前 (竹) 運送店主 兼汽車待合任 並新聞取次店 松木泰吉

謹賀新年 京義線興水院 米及雜穀委託賣買 並松函石油雜貨商 勝浦松治郎

謹賀新年 京義線新幕 雜貨商 常石周一

謹賀新年 京義線沙里院 中上喜助

謹賀新年 活字、罫、輪廓、鉛版 凹凸版、寫眞版、木版 電氣版、諸金屬版 其他活版附屬品一切 京城明治町二丁目 高木製作所 電話(取次)一七〇七番

謹賀新年 清水金物店 同 鐵工所 平壤 清水龍藏

謹賀新年 京城本町二丁目 貿易商 林田金次郎 電話六五番

眼鏡一式 磁石寒暖計 メートル 驗温器 京城黄金町二丁目六十六番地 大島佐支店 卸商 宮川太吉 振替口座京城一一二九番

謹賀新年 內外農蠶具製作 歐米農具直輸入 養蠶製絲器具機械 —機械及附屬品 純良種苗養成 人造肥料各種 京城三輪商會 戶田春藏 營業 京城南大門通三丁目 製作工場 京城旭町二丁目 電話長三八六番 振替口座三七五番 電信略號(ミツ)又ハ(トダ)
—朝鮮に於ける農蠶具商店の元祖—

謹賀新年 鎭南浦稅關長 野手耐

謹賀新年 鎭南浦三和町 有本病院 電話一〇八番

謹賀新年 鎭南浦三和町 直塚醫院 電話一九番

京城日報 新年號 第三

戰後に於ける英獨の海軍
英國依然世界の制海權を把握せん歟
總督附武官 海軍少將 森義臣氏談

歐洲戰爭の過去及び現在を見て將來をトすと云へば問題が餘り大きく成り過ぎるが過現未三界を通じて海上の覇王は依然として英國に在るを思ふ戰爭以前に於ける列强の海軍々備に對する態度は只管に競爭のみで

一國一艦を造れば他國は一砲を

巨大にすると云ふ有樣であつた其最も代表的な對象は英國と之に對抗する獨逸であつた併し乍ら如何に獨逸が擴張しても遂に英國には匹敵し得なかつた戰爭が始まつた當時の英獨海軍の對比は百と百六十の比例であつた（超弩級艦の比較）戰爭が初まつて以來の造艦等は双方共に極めて秘密の事であるから判明しないが無論盛んに擴張せられつゝある事と思ふ戰爭開始以來獨逸の海軍は最初から英國艦隊と堂々の海戰を避けた是れ言ふ迄も無く

數の上から勝味の無い事が明瞭

であつたから負けると決まつた戰ひを避けた譯である併し獨逸の海軍も折々は隱れ家たるキール軍港を忍び出て北海に現はれ航行の敵商船を脅かし或時は英本國の海岸に砲擊を加へて奏功した事もあつたが其一艦を擊沈せらるゝに及んで復其効無きを悟り軍港深く逼塞するに至つた其代りにとも見らるゝ樣に盛に潜航艇が活動してゐる事は世人の熟知してゐる通りであるキール軍港の奧深く潜伏してゐる獨の主力艦隊が今後其隱れ家から現はれ出で、敵艦隊即ち英艦隊と堂々の對戰を爲すであらうか怎乎と云ふ問題は世人の注意を呼んでゐる處であるが而して此問題に相關聯して其解決を與へる前に

大艦と潜航艇の戰闘力及攻擊力

に就て考へて見る必要がある今日海軍の戰闘力を云々するには超弩級戰艦の艦數で言ふ樣に其他の艦隊は殆んど大勢の上から見て大した勢力とは成つてゐない頃日新造せられた扶桑一隻は假に日露戰爭當時の我國の全艦隊に匹敵し得る勢力である假に茲に兩艦隊相對陣するとして双方互角の勢力であるか乃至は其差非常な隔越を有しない場合に於ては其

勝敗の數は戰術の奈何砲術の巧

拙等が大に影響もし得るけれども一方には超弩級艦あり一方之を有しないと云ふ場合に於ては一隻の超弩級艦が非常な勢力となる即ち巨艦は巨砲を積載する事が出來巨砲はより遠隔な著彈力を有してゐる弩級艦以下の艦隊が未だ其著彈距離に達しない場合即ち未だ砲火を放ち得べからざる場合に於て既に超弩級艦からは發砲し得る從つて弩級艦以下の艦隊乘組員は如何に砲術が熟練してゐても例へば百發百中的手腕ありとしても發砲は總て敵艦迄到達しないで徒らに海中に落ちてしまふ反之超弩級艦乘組員の砲術拙劣さが例へば百發一中の程度であつたとしても一發は的中する既に是れ丈けの弱點を有してゐる以上海軍の軍備をより以上ならしめんと欲する列强は

勢ひ巨艦巨砲に向つて進まざる

を得ない事になつて來るのである無論實戰は演習ではないから必ずしも右の假定の通りにのみは行かないで或場合には意外の戰勝があり得るかも知れないけれども其れは今茲で豫定し得べからざる一か八かの決戰である

要之獨逸艦隊は英國艦隊の爲め

に逼塞せざるを得ない立場にされてしまつてゐるのである日露戰爭當時に日本の海軍が旅順港口を閉塞して敵艦を黃海海上に出現し得ない樣にしたのと場合は違ふが結果は同樣と成つてゐる旅順閉塞の後日本は完全な制海權を得た樣に英國は今同樣の結果を握つてゐる旅順閉塞後と雖も露國の水雷艇はチョイ〳〵港外に出動してゐた丁度其樣に獨逸の主力艦隊はキールに逼塞せざるを得なくなつたが潜航艇は以前に增して戰の進むに從て次第々々に盛んになつて來る

猫がゐさへすれば別に其巣に征

め込まなくても鼠は勝手に出て來て亂暴はしないけれども猫の隙を窺がつて惡戯はする現在獨逸の潜航艇が北海或は地中海に於ての活動は要するに右の鼠の惡戯に過ぎない譯である即ち獨潜航艇の勢力は決して堂々の勢力と言へぬ許りでなく敵の隙を覘つての仕事だから生命懸けの仕事であり乍ら決して其効果は花々しいものではない必要に應じて敵の潜航艇から逃げようと思へば（消積極的に敵の攻擊を擊退しようと思へば）商船にしても運送船にしても警護艦を附しさへすれば譯は無い現に昨今英佛海峽は英國から大陸へ輸送する

陸兵及軍需品の爲に運送船で橋

が架つてゐる樣な仕末だと云ふが萬一茲に獨潜航艇が紛れ込みでもしようものなら一堪りもなくやられてしまふので英國海軍は其兩側に大小艦を以て護衛の垣を築いてゐる樣な有樣だと云ふ從つて今日英佛海峽に於ては獨潜航艇の被害を聞かない樣になつた英佛海峽と地中海とはお池と海だ

渺々たる地中海で渺たる潜航艇

を發見しようとするの困難はお話にもならぬ況や敵にしても相手の隙を覘つてやつてる仕事なのだから被害も折々はあるにしても其被害は最初から數へ立てれば相當の數にも爲るであらうが毎日航行してゐる數から言つたら無論數へる迄の數にもなつてゐない譯である即ち英艦隊は獨艦隊を逼塞して置いて依然として英國の貿易は行はれてゐる獨の潜航艇の攻擊が

英國を初め敵國の貿易を阻碍

し得ず軍隊乃至軍需品輸送上に何等の影響を與へ得ない以上其効果を重視する事は出來ない譯である斯くて戰爭の終熄する期も知らず進展する間は斷えず獨の潜航艇も活動するであらうし其れと同樣に英の戰艦も雄飛するであらうが英艦隊にして北海の制海權を握つてゐる間は先づ獨逸主力艦隊は其潜伏港から出動し得ないであらう併し其れも今後の戰況の奈何に依る事は勿論である

獨逸主力艦隊出動に就き二つの

場合が想像される即ち一は獨の大捷の場合、一は其大敗の場合である、此大戰爭が如何に終局するかは無論わからない而して若し五分々々乃至多少の優劣を以て終局する樣な場合には勿論戰後獨逸の存在が許される譯である其場合に及んで更に艦隊を再建すると云ふ事は非常な困難事であるから暫く忍んで制海權を英國に任せて置き之を他日の爲めにする、と見るが至當であらう即ち獨の主力艦隊は遂にキールから出動しないで終るであらう尚換言すれば英獨兩艦隊對抗の大海戰は遂に見る事が出來ないであらう現在の狀態では戰況が如何に展開するか不明であるから何他の場合をも想像して見なければならないのだが

獨軍が大陸に於て大捷した場合

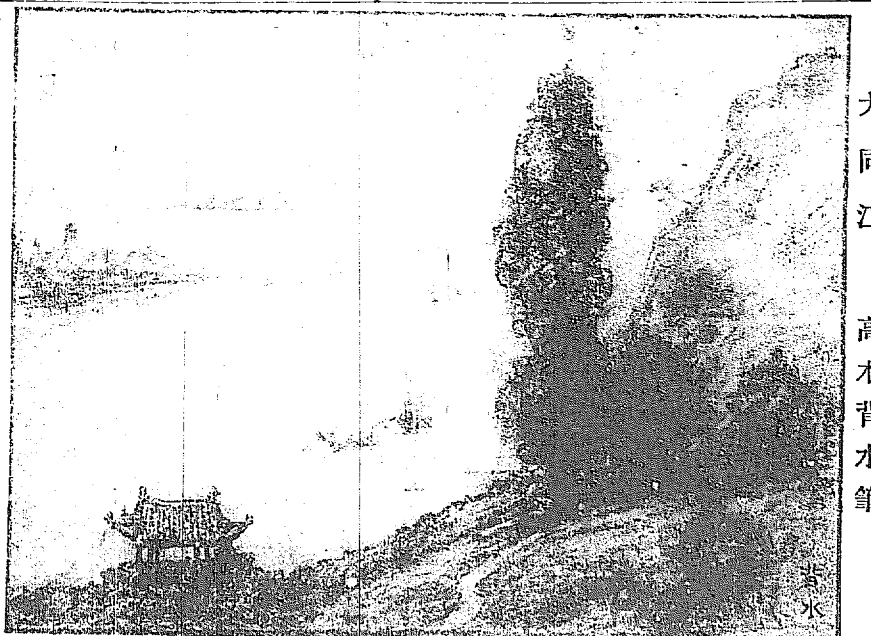
には奈何、獨が大陸で大捷しても直接英本國へは何等の打擊を與へてゐないのだから切めて一擊を英國へ與へる其道を造る爲めに或は獨は其主力艦隊を犧牲にしても海上の垣を築いてゐる大艦隊に衝突するかも知れない即ち其時は兩大艦隊大會戰の時機である、更に尚一つの場合即ち大陸に於て獨軍

聯合軍に大敗壞滅せられた場合

其時は換言すれば獨逸國の存在が認められなくなつた場合、獨逸國滅亡の時である萬事が休する時であるから海軍のみ殘つてゐたとて何に爲らう斯くて狂暴的に出動して敵に當るであらう今日の場合に於ては怎して此三つの場合を假定して言ふより外に言ひ樣は無い譯である、要するに

戰後に於ても海上に於ける英國

の威力は現狀の如く世界の海洋の覇者たる資格を失はないであらう而して戰後と雖も戰前及び戰爭中同樣に列國は海軍々備の爲めに不斷の競爭を續けるであらう而して其競爭の主眼は各國共に極秘の事ではあるが巨艦巨砲が一方の眼睛であると同時に潜航艇の研究も益々進歩するであらう（文責在記者）



大同江　高木背水筆

日報詩壇

○丙辰新年　松田學鷗

春滿芳辰酒滿胸。意氣將騰歲在龍。萬壑風雲扶醉骨。夢登長白最高峰。

高野竹隱曰　氣象雄渾筆如游龍

福井學圃曰　筆亦龍騰

天業升恒頌盛儀。歲華重見瑞光披。千山晴雪臨官道。古府炊煙帶旭遲。往事流傳丝議政。寒暉麾濕儒題詩。醉來好向揚州路。梅月堂前鶴唳時。（自註時寓政府舊官舍）

李太祖諸政後梅月堂在州、世祖朝金時習遺址

高野竹隱曰　開闔抑揚、用筆如意、句句活動、

福井學圃曰　句句關生、七八悠揚、

◎新年雜詠

新郎の門の飾や橙の香　袋人

注連飾同じきが官舍軒並に　同

小なりと雖柴門に輪飾りぬ　白紅

屠蘇酌む猩々の話聞かせ鳧　同

數の子の齢む心地貧富我になし矣　雄川

神に捧ぐ元朝の灯や國安かれと　同

門松や朝鮮家と隣りけり　同

屠蘇に醉うて歸る庵のせまさ哉　魚骨

不調和に太き草庵の飾り哉　同

謹賀新年（いろは順）

京城府漢江通（電話一〇八番）大橋組宮地吉太郎

京城府漢江通（電話六一六番）大高組

京城府漢江通（電話六三九番）津田組

京城府元町（電話三四七番）永田組

京城府漢江通（電話六二一番）藤井組

京城府漢江通（電話六四一番）札幌 伊藤組出張所

京城府元町（電話二〇五番）本原組

京城府元町（電話二〇七番）白坂組

謹賀新年

品質本位 最上醬油 風味佳良

京城府元町二丁目 關西商會釀造所 電話（龍山）三九番

謹賀新年

生糸蠶繭蠶種屑物 其他朝鮮物産賣買

京城龍山漢江通十一番地 朝鮮繭絲商行 行主 鳥飼武次郎 電話龍山長一五七番

謹賀新年

龍山水産株式會社

謹賀新年

株式會社 十八銀行龍山出張所

謹賀新年

和洋紙文房具 和洋帳簿活版 印刷諸官衙 御用達

龍山元町二丁目 須田商會支店 電話一一七番 振替京城一三五四番

謹賀新年

南滿州鐵道株式會社鑛業課 撫順炭各種 本溪湖炭 大賣 同上コークス 賣捌 鐵嶺臺炭（無煙）並ニ石油薪炭卸小賣

京城龍山京町 實榮商會 電話一〇七番

謹賀新年

新案特許手提信號灯、諸鐵物及木具椅子鐵脚腰掛、鐵道用金物一切製造販賣

龍山京町 田川常治郎 電話六二八番

謹賀新年

味噌醬油 清酒 卸商

龍山漢江通郵便局前 平壤 內田出張店 電話長二四六番 振替京城一九二四番

謹賀新年

龍山錦町 松村三省 電話五〇四番

謹賀新年

建築土木 請負業

龍山漢江通八番地 小川隼人 電話六四八番

謹賀新年

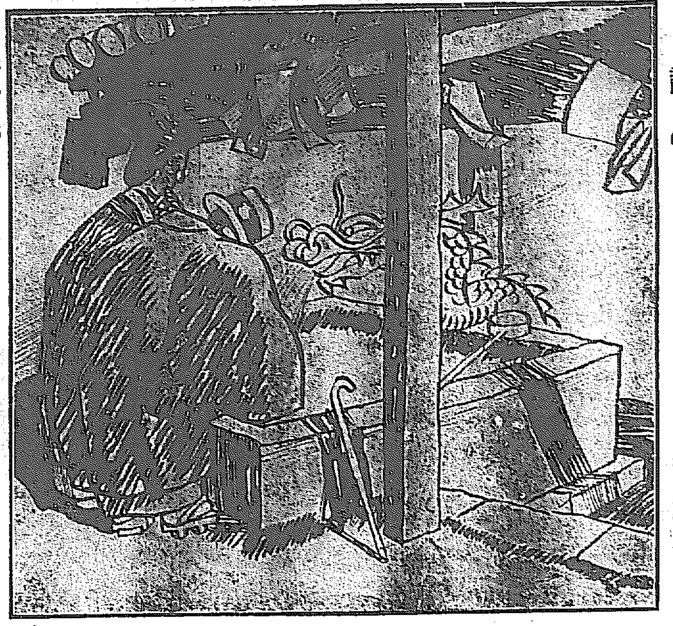
龍山 佐久良座 座主 村上榮

謹賀新年

京城岡崎町 須川材木店 電話（龍山）四三四番

謹賀新年

龍山榮町 龍山座 芦澤ツヤ



龍の口 前川千帆筆

大正四年の朝鮮鐵道

施設事業と營業成績

大正三年度に於て著手したる咸鏡線建設工事は大正四年に入りて漸く工を進め其一部たる元山文川間十二哩五分(元山永興間の一部)は八月一日を以て運輸を開通するに至り茲に於て從來九百九十四哩餘なりし朝鮮鐵道營業線路哩數は延長一千哩に達せり又同年度に於て著手したる京釜本線の改良工事は其工程の進捗著しく大田新灘津及び新灘津芙江間に於ては隧道全部の工事を終り土工其他を通じて殆んど竣成を見るに至れり更に咸鏡線淸津會寧間の建設工事は出水の爲め多少の豫定を變更して工事を進め一二隧道貫通をも見るに至れり

日支周遊券の發賣

營業上の施設としては一月より日支旅客交通の範圍を支那國有鐵道京漢、京張、津浦、滬寧の四鐵道に延長したるを初め四月北京に於て開催したる第三回日支旅客聯絡運輸會議に於て協定したる日支周遊券及び巡遊券は十月一日より何れも之が發賣を開始せり

鮮滿直通急行列車運轉日變更

大正三年九月以來一週一回の運行に改めたる鮮滿直通列車は西比利亞線に於ける急行列車の確實なる運行を見るに至りしを以て二月より其運行日を變じて連絡を便にするに至れり

湖南、京元兩線の運行時刻改正

湖南、京元兩線は其運輸狀況に鑑み列車運轉時刻改正の必要を認め八月より之が實施を見るに至れり

倉庫營業驛增加

豫て全線に亘りて倉庫營業を爲しつゝあるが大正四年度中に於て更に新に其開始を見たる箇所は元山、西氷庫(京元)沙里院(京義)論山、金堤(湖南)鎭南浦(京義)の六驛に及べり(順序は開設月日順に據る)

共進會に對する貨客輸送上の施設

秋季に於て開始せられたる朝鮮始政五年記念物産共進會に關しては觀覽客及び出品物に對し各種の割引を行ひ且之が輸送に就ては車輛の增結臨時列車の增發を以て之が輸送に遺憾なきを期せしめたり

一千哩延長記念祝賀會擧行

十月三日京城景福宮に於て御滯留中なりし閑院宮殿下の御台臨を仰ぎ且朝野の名士四千餘名を招待し盛大なる朝鮮鐵道一千哩延長記念祝賀會を擧行せり

金剛山ホテル開設

記念物産共進會開設を好機とし天下の名勝金剛山を廣く天下内外人に紹介せんが爲め溫井里に鐵道ホテルを建設し船車聯絡往復割引切符を發賣し探勝者の便宜を圖れり

運輸狀況

輸送の狀況は前年來の歐洲戰爭の影響及び一般世間の商況不況の後を承け概して閑散なるを免れざりしが六月以降漸次良好に向ひ十月共進會開催に依り俄に旅客人員を增加し實に空前の好況を示し終了後稍々閑散を告げたるも六月以降漸次增加し來れる貨物運輸は十一、十二月に於て益々好況を呈し米、大豆、石炭、木材、綿布等著しく其出荷量を增加せり之を要するに前半期に於ては運輸比較的閑散なりしも後季に於て其趨勢を一變し前年に比類なき好況を呈するに至れり別表前年度と對比したる運輸成績表を錄して參考に資せん(無印增加、△印減少、尚大正四年十一月十二月兩月分は概算とす)

	乘客人員 本年度	乘客人員 前年對比	貨物噸數 本年度	貨物噸數 前年對比	客車收入 本年度	客車收入 前年對比	貨車收入 本年度	貨車收入 前年對比	運輸收入 本年度	運輸收入 前年對比
一月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
二月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
三月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
四月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
五月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
六月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
七月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
八月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
九月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
十月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
十一月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
十二月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
合計	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

都市の獨占事業

京城電氣株式會社支配人 木本倉二氏談

由來獨占事業とし云へば一も二もなく暴利を貪るものであり我儘勝手の振舞を敢てするもの、如く思はれて居たのも最早數年昔の噺である、就中都市の獨占事業程其經營者が暴威を擅にすると云ふ樣なことは絶對に出來ぬ、單に獨占事業として存在する例へば鐵道の如きものであれば甲より乙に至る距離の間は否が應でも鐵道の便を借らないでは勞力と時間の上から尠からぬ損失を受けることゝなるからして假令其經營者が無暴の賃銀を乘客に課するとするも尚ほ且つ甘じて之れに應じなければならないのである何んとなれば之れに代る可き補助機關を得ることが困難であるからである

▲供給者の弱味 之れに反して一見非常に利潤を得るが如く見えて其實頗る困難なる電車、電氣、瓦斯の如き所謂都市の獨占事業に於ては之れに代はる可き幾多の機關が備へられて居て何日何時需要者と供給者の利害關係が相反する樣になつた場合に於ても忽ちにして其補助機關を以て補ふことが出來るのである即ち電車の代りには俥あり自動車あり馬車あり或は又徒歩するも差支なく電氣は無くとも石油あり瓦斯は無くとも薪炭ありと云つた樣に其間多少の不便はありとするも需要者の方では供給者である會社が需要者側のボイコットに依つて受けた打擊の十分の一の不便をも感じないので之れが都市に於ける獨占事業の弱點とでも云ふ可きものであらう

▲料金遞減の苦心 其れと今一つは都市は需要者の集合地であるからして一朝供給者の取つた料金の値上げとか或は顧客に對して不親切であるとかの不平が需要者の一部に起るとすると直ちに一町又は全部擧つて何と會社は不都合なり料金の値下げをせずば非買同盟を斷行するぞと云ふ風に會社に向つて追求するの便宜と强味を持つて居ると云ふことは是亦都市の獨占事業を經營する者に取りて甚だ困難を感ずる點である故に今日の獨占事業者は如何にして利益を獵得せんかと云ふことよりも如何にしてより多く料金を遞減し需要者の要望に添はんかと云ふことが最も重大な問題として研究されて居るのである

▲需要者の力 如斯專ら需要者の希望を充たさんことに勗めて居るものゝ蓋し其獨占事業が私營である以上は必ず先づ株主に對する配當を多くせんとするは是れ應に然る可きものであつて固より庇護す可き限りではないが而も之れがために市民の公利公益を無視するが如きことは絶對に許す可からざることである然らば此種の獨占的事業に對して都市は如何なる政策を取つて居るかと云へば唯二つの策が施されて居るのみで即ち市營政策、報償政策である、兎に角にも何れにもすれば其獨占的の勢力に伴ふ自然の誘惑に陷らんとする傾向を有するものが近來一種恐る可き民衆の力のために到底其餘地を與へられないのである從つて獨占事業は專横なり暴利を敢てするものなりと云ふ誤解も自然氷解されるものと信じて疑はないのである

朝鮮輸入俚諺集
電光で煙草を點ける。

謹賀新年
平壤大和町
高等各種靴製造卸小賣 ㋒ 梅田商店
電話四二五番

謹賀新年
平壤府廳
山下正道
荒木觀次郎

謹賀新年
平壤府尹 本田常吉
平壤南山町官舍

謹賀新年
平壤和洋雜貨商組合(いろは順)
大和町 龜屋支店 電話六四番
南門通 八洲國屋 電話一五二番
同 山本金商店 電話五五五番
大和町 山谷洋服店 電話六二一番
南門通 荒木小間物店 電話四一八番
大和町 廣島屋商店 電話五五六番
同 盛昌洋行 電話三〇四番

謹賀新年(いろは順)
吳服太物商 濱田吳服店 鎭南浦三和町 電話三八番
歐米雜貨吳服太物商 巴商會 鎭南浦三和町 電話二二四番
吳服太物商 岡部吳服店 鎭南浦明峽町 電話一〇四番
吳服太物商 谷川吳服店 鎭南浦三和町 電話三一番
洋酒洋食料品舶來雜貨商 延田洋物店 鎭南浦三和町 電話一〇〇番
西洋雜貨洋服商 松岡洋物店 鎭南浦明峽町 電話二三七番

釜山移入酒類商組合(いろは順)
謹賀新年
辨天町三丁目(電話八五番) 二宮酒店
南濱町一丁目(電話一三一番) 大塚釜山出張店
西町四丁目(電話六二四番) 田熊釜山支店
南濱町一丁目(電話四二六番) 永武酒店
大廳町三丁目(電話九〇二番) 上西酒店
幸町二丁目(電話三〇一番) 山邑釜山支店
幸町一丁目(電話三四三番) 首藤釜山支店
南濱町三丁目(電話九五〇番) 淸力釜山支店

謹賀新年
大正五年一月一日
鮮魚運搬業
朝鮮慶南蔚山郡方魚津
㋩ 林兼出張所
店主 中部幾次郎

謹賀新年
釜山精米業組合(いろは順)
釜山港大廳町 磯谷精米所 電話一四一番
同 岸本町 石川精米所 電話八二〇番
同 埋立新町 土肥精米所 電話七四五番
同 辨天町 大池精米部 電話一〇四八番
同 草梁 草梁精米所 電話九七三番
同 埋立新町 那須精米所 電話長三六〇番
同 西町 上田精米所 電話三五九番
同 絕影島 共盛精米所 電話絕影島四番
同 幸町 釜山精米所 電話二二一番
同 本町 品川精米所 電話二〇七番

謹賀新年
龍山驛前
陸軍鐵道局御指定 太陽旅館
電話一六番

謹賀新年
京城府漢江通十三番地 大和與次郎
京城府龍山(郵便局前) 大和社運送部
電話長四二〇番 振替京城一五六一番

謹賀新年
漢江通郵便局前
金銀各種時計蓄音器及び音譜眼鏡指輪寒暖計類一式 天眞堂
電話五六二番 振替口座京城四四四番

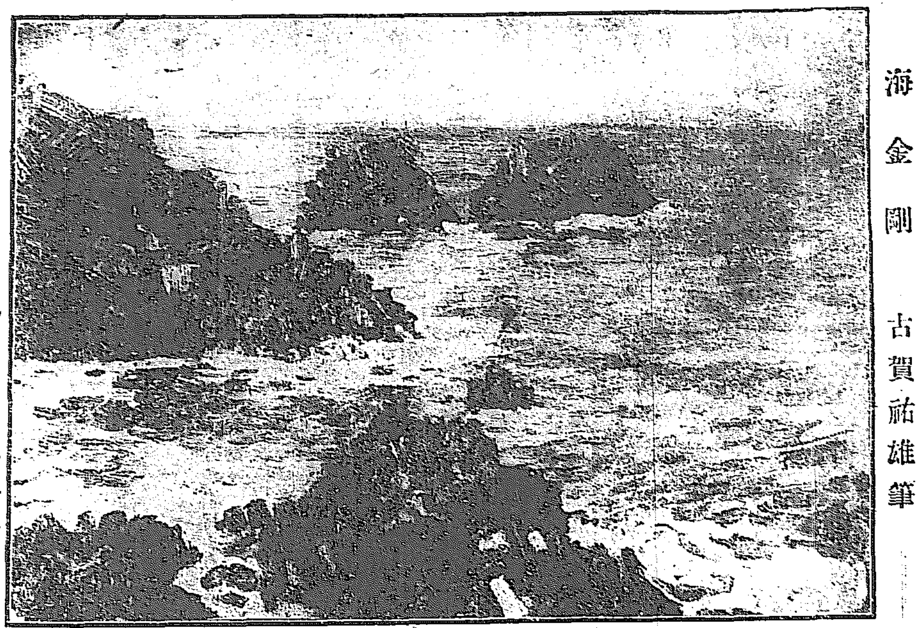
謹賀新年
陸軍御用達
龍山漢江通(三角地前)
和洋菓子製造 玩具繪はがき 文房具化粧品 商 石見堂
店主 椋木彦五郎
電話三二一番

謹賀新年
龍山漢江通八番地
巴商行 樋口米太郎 電話龍山四二四番
京城黃金町三丁目三四〇番
同 營業所 電話一四二五番

謹賀新年
龍山
學校机黑板製造業 松村工作所
電話七一三番 振替京城一二七八番

謹賀新年
京城府龍山元町一丁目
醬油味噌製造業 淸酒類販賣 兼古商會
電話一四一番

謹賀新年
陸軍諸官衙御用達
龍山元町二丁目
石炭木炭石油炭團卸商 丸三組商會
電話五六一番



海金剛 古賀祐雄筆

戰後の人口問題

五年十年では恢復すまい

總督府醫院內科部長醫學博士 森安連吉氏談

□戰爭後の人口問題は單に學上から見て興味ある問題である許りでなく其れ以上爲政者側には緊急な問題となつてゐる普佛戰爭後に於ける其問題が如何であつたか、今茲に明確な數字を記憶しないが今後の歐洲戰爭が全歐洲を擧げての大戰である丈けに戰後に於ける此問題も今迄に無い大きなものとなる

□茲に興味ある問題は戰前迄佛蘭西と獨逸が明瞭に代表してゐる兩極端の二箇の問題である戰前に報告せられてゐた處に據れば巴里の人口は年々減少してゐた其れは一に巴里婦人の避姙が原因してゐた姙娠に依つて受ける社交上不利益不利な現象例へば腹が膨れると人前に出られないとか添乳が時を邪魔するとか其様な爲めに盛に避姙法が講ぜられ隨つて人口減少と云ふ現象を示して來た之と正反對な現象として獨逸と露西亞には官營の私生子養育院があつた予はペトログラードのを參觀したが是れとても決して私生子獎勵の趣旨ではない出來たものは仕方がないから養育してやると云ふ譯で何でも同一人の私生子は二人以上養はないと云ふ様な規定もあつたと思ふ此兩極端の巴里と伯林の現象が戰後屹度變化を來すに違ひない獨逸のは益々進んで講究せられ佛蘭西のは獨逸に接近して行くに違ひない

□私生子も同國人間の私生子なれば兎も角も戰爭の當初鳥渡問題となつた獨逸兵に强姦されて姙娠した白耳義婦人の慘憺たる心痛である是等の婦人の敢てした墮胎が犯罪であるか怎うか、其出生兒の國籍は怎うなるか母子の愛情は奈何?夫れ等も亦問題となるに違ひない

□頃日亞米利加で起つた問題だが戰後態度事も亦論議せられるであらう其れは中流人士と醫術との關係である上流人士は隨意に診察も受け得る下流社界に對しては養育院とか施療院とかがある然し中流人士が充分に診察を受けやうとすれば到底診察料許りにも追付かぬ其れかと云つて施療院にも行けない茲に於て中流社會の爲めに特に實費許りで濟ます様な何等かの設備がされなければならぬ戰後必ず問題となつて來るであらう

□戰爭は國民中より血氣盛んな壯丁のみを戰地に向はせ後には病弱な者と老人とが殘されてゐるから、隨つて戰後の出生兒の健康上に杞憂せらるゝものがあると說く者があるが是れは單に杞憂に過ぎない病弱と云つても遺傳性の者であれば兎も角もだが夫れでも育て様の奈何で充分に恢復する事は出來る、唯今回の戰後に憂ふべきは戰爭も大きい丈け夫れ丈け平常に恢復するのに長日月を要するであらうと云ふ事である決して五年や十年では恢復しないだらうと思はれる

池田蕉園筆

今後の海運界如何

朝鮮郵船會社々長 商業會議所會頭 原田金之祐氏談

□海運關係 戰亂の影響を受けて船舶は供給不足を告げたために海運業者は所謂漁夫の利を占めたりと云へど個人の經營にかゝる一部の當業者はいざ知らず命令航路に就航せる補助會社にありては必ずしも然らず唯海運界一般の好況に連れ從來に比し異數の利潤を獲得したることは現はれたる事實なり今後歐洲の戰亂が何時終局す可きかは素より逆睹し難きも假りに今年中に終局するものと見るも

▲平和後の海運界は目下の狀態を繼續すべし、如何となれば戰亂のため海運界より失ひたる船舶の噸數は多大のものにして到底容易に世界の航運に立つ可き船舶數に恢復す可くもあらざればなり、若し又各國の中立港に抑留中たる多數の獨墺船舶が解放され舊態に復し來るとするも從來の如く全般の海運機關をして遺憾なからしめんこと不可能事にあれば、依然として比較的に戰亂の影響を受けざる日、米等の海運業者に世界の海運業を託するは疑を容るゝ餘地なかるべし、兎に角內地の海運界は斯の如き盛況を極め而かも一方四年の外國貿易は一億六千餘萬圓の輸出超過を來したる等彼之の關係よりして今日の好景氣を產出したるものなるべし之れに反して我朝鮮郵船會社は

▲朝鮮沿岸航路を主なる營業の範圍として居れるため前記の好況とは何等交渉なきのみか下半期に於ける北鮮地方の漁業不振にして水產の出荷なく寧ろ不況の狀態にあり此際米價の小騰は在庫品の搬出ありたるにより此方面より多少の荷を得たるのみ、從つて本年度に於ては何等特殊の新計畫なく前年よりの方針を踏襲するに過ぎず、只長崎造船所に客年十月註文したる千五百噸の新造船が完成する曉に於ては幾分航路に改善を來すやも知れず、新航路を開始す可き地點は多々あるも目下其餘裕なし

□商業會議所 多年の懸案たりし商業會議所令發布され其れに依つて新商業會議所生るゝと云ふこと既に慶事なり、況んや多望なる將來を有するに於いて一層賀す可き次第なるをや、選出されたる評議員も適材を揃へ愈之よりして半島商工業の進歩發展に貢獻せんとす、思へば前途は洋々たるが如くにして而かも多難なり。是をしも宜しく切拔けて新會議所存在の意義を致せんこと一に懸りて議員一同の責務たらずんばあらず今後の會議所は舊來の弊習を打破し京城の會議所たるのみならずして朝鮮の會議所たるの自覺を以て捲土重來多々益々調査に研究に一般會員は裨益せんことを勗めざる可からず、朝鮮に於ける米價の調節問題、日露貿易の促進等其他日本內地と大陸との間に介在する朝鮮京城商業會議所の使命は重大なりと云はざるべからず

謹賀新年 京城旭町二丁目 九州旅館 電話八三番

謹賀新年 福井武次郎 京義線新安州 福井果樹鑛業所

謹賀新年 鳥致院 今村德重

謹賀新年 京義線鳥致院 朝鮮興農園 杉岡恒次郎 電話二七番

謹賀新年 鐵原郵便局 星野波次郎 清水幸七 安武登八 山本貢 小野田政治 李起練

謹賀新年 鐵原驛 阿部喜久造

謹賀新年 鐵原郡廳員一同

謹賀新年 京釜線龜浦驛前 津田運送店 津田旅館 京城日報、釜山日報、大阪毎日、大阪朝日、毎日申報取次店

謹賀新年 龜浦金海間 洛東江巡航船營業所 田中兼次郎 京釜線龜浦

謹賀新年 京釜線龜浦 入院隨意 頴原醫院 頴原圓

賀正 米雜穀商 小宮商店 京釜線龜浦

賀正 酒醋 清酒梅正宗 龜の浦 正 釀造元 八木酒場 京釜線龜浦 八木茂二郎

賀正 米、雜穀貿易 川島英次 京釜線龜浦

謹賀新年 龜浦郵便所長 增田政次

賀正 建築請負業 指物 田口工場 慶南蔚山本府

謹賀新年 朝鮮總督府度量衡器委托販賣 日淸生命保險株式會社代理店 明治公債株式會社代理店 慶南蔚山本府 中塚隆稔商店

賀正 米穀商 東洋保險會社代理店 キリンビール特約販賣 名酒有勳特約販賣 慶南蔚山郡本府 日野增太郎

賀正 淸酒三巴正宗同金泉、同金水 味淋、燒酎、味噌醬油 釀造元 定金酒造場 蔚山本府

賀正 名酒國之光 國之譽 並に漁業 釀造 蔚山郡方魚津港 合田榮吉

賀正 御旅館 海產物商 生魚仲買 各船問屋 蔚山郡方魚津 高田旅館事 高田虎五郎 電略(タ)

謹賀新年 和洋紙 印刷業 平壤旭町 奥田洋行 長電話二二五番

謹賀新年 平壤券番組合(イロハ順)
大同館 蝶吉 若福 花奴 若奴 蔦次 吉子 三光 花子 千代子
壽 壽 玉吉 金壽 吉彌 君榮 おもちや
喜樂 小千代 蝶々 のんき 輝子 牡丹 こんぽ 雛助 政奴
七星館 小光 若勇 龍子 小夜子 巴哉 花香 若葉

朝鮮京城南大門三丁目 電話一五六〇番 五八三番 振替口座二二四番 西洋雜貨洋酒類 洋家具室內裝飾品 銃砲火藥免許商 藤末利右衛門 本店 仁川港本町一丁目角 電話四〇番 振替貯金京城二三〇一番 出張店 青島膠州灣

謹賀新年 京城本町一丁目 小川勝平法律事務所 電話四一番

謹賀新年 京城南大門通二丁目 膽寫堂京城出張所 電話四〇二番

謹賀新年
龍山漢江通十三
セメント石灰 青竹 材料一式 左官商
戸張商店
電話五三四番

謹賀新年
龍山漢江通八番地
金物商
島田忠作商店
電話四九番

謹賀新年
龍山榮町
建築請負業
祝一郎
電話一一九番

謹賀新年
疊表七島表類附屬品一式
花莚柳行李商
龍山榮町
高橋大五郎
電話四七番

謹賀新年
龍山榮町
矢野酒造場

謹賀新年
龍山榮町
富山武盛
電話四三番

謹賀新年
陸軍御用
うなぎ商
菅野商店
電話二二七番

謹賀新年
食料品雜貨商
京城府漢江通十六番地鐵道構內
すぎ屋支店
電話七一七番
振替口座京城一七四七番

謹賀新年
御料理 仕出し
龍山漢江通六番地
森山留吉
取次電話六二二番

謹賀新年
京城府漢江通六番地
石炭商 大谷商店
電話三〇一番

謹賀新年
土木 建築 請負
釜山本町五丁目
木下元次郎
電話六三七番

謹賀新年
土木建築請負業
淀川商會
平壤道廳前
淀川直太郎
電話六四一番

謹賀新年
和洋紙文房具類
活版用(インキ附屬品各種
石版
謄寫版機械類一切
平壤大和町道廳通四ツ角
千代田商會

謹賀新年
菊水商會營業主
小川甲子彦
商會員一同
平壤水玉里百九十九番地
電話五三〇番

謹賀新年
鎭南浦三和町
鮮人向 雜貨商
大田喜助商店
電話二六五番

謹賀新年
鎭南浦
朝鮮銀行出張所
電話一一番

謹賀新年
營業科目
果樹園經營
果樹諸苗木
植林諸苗木
ニセアカシヤ種子
特製剪定鋏
最良噴霧器
害蟲驅除藥品
果樹園用肥料
平壤府停車場通
平安攻玉園
電話二六四番
振替京城一四五五番

謹賀新年
忠淸南道公州地方法院
關口半
花田銀太郎
橋本寬
兩角斌
切山篤太郎
江藤爲久
山口均四郎
羅瑨

賀正
忠淸南道公州
湖西農工銀行支店
久保正次郎

賀正
忠南公州蠶業組合長
加賀美守

賀正
中岡傳吉

賀正
京城日報、大阪每日新聞、大阪朝日新聞、萬朝報大取次所
公州 白倉新聞舖

賀正
朝鮮煙草株式會社一手販賣所
公州 丸山商會

賀正
會席御料理
公州 一新樓

賀正
會席御料理
公州 湖月

賀正
會席御料理
公州 富の家

賀正
會席御料理
公州 梅の家

賀正
公州 常盤旅館

賀正
公州 富久尾醫院
院主 富久尾湊

賀正
雜貨商
公州 池田商店

謹賀新年
古銅鐵亞鉛
並に諸機械
京城南大門通三丁目
廣原京城支店
電話九一六番
本店 大阪西區九條通三丁目 廣原本店
支店 平壤南門町 廣原支店

謹賀新年
內外雜貨卸商
合資會社
京城南大門通三丁目
玉植商店京城支店
電話二五二二番

謹賀新年
諸官衙御用達
和洋諸紙、文房具
活版、石版、印刷
雨傘、提灯、帳系
學校用品一式
つちやたび代理店
京城南大門通り五丁目
九州屋商店
電話二二二六番
振替口座京城一二八一番

謹賀新年
京城本町三丁目
海陸產物卸小賣
食糧品一式
森川商店
電話九三五番
京城獨立門外
富貴味噌
森川萬富園工場
二二〇七番

謹賀新年
京城永樂町二丁目
京城十友合資會社
電話六三六番
振替口座京城七二二一番
副業
英國リバプール、エンド、ロンドン、エンド、グローブ火災保險會社代理店、福德生命保險株式會社京城代理店

謹賀
新年
京城府青葉町二丁目百十七番地
小野タオル製造所
主任 小野萬平
電話一五九〇番 電信略語(オノ)
振替貯金口座番號 京城四一一番

謹賀
新年
朝鮮京城南大門通二丁目
直輸入 羅紗商
合資會社 睦商會
電話(長)三九五番
振替口座京城二三三番

謹賀新年
和洋菓子製造卸小賣
人蔘飴朝鮮飴製造元
並に內外砂糖
水飴掛物類一切
鑵詰箱詰類各種
朝鮮京城南大門通三丁目
千利堂菓子舖
西尾留之丞商店
電話二七一〇番 電略(ニ)又は(セン)
本店製造の栗饅頭は始政五年物產共進會に於て
銀牌受領の光榮に浴せり

謹賀新年
龍山元町（いろは順）
岩田千春
岩見虎二郎
富井實太郎
土永作一郎
植西源五郎
山口吉之助
松下健

謹賀新年
龍山京町
電氣器械 鑛山用器製造
若泉商店
電話六三三番

謹賀新年
龍山元町三丁目
小山分店
電話四二番

謹賀新年
龍山漢江通八番地
陸軍御用達
姬野商店
電話六三三番

謹賀新年
龍山旭橋通
丸山式蒸燒器朝鮮總代理店
廣谷商會
電話三三番

謹賀新年
龍山榮町
尾崎金物店
電話三六〇番

謹賀新年
旭橋通
林田力松
電話一二九番

謹賀新年
龍山元町三丁目
材木商
竹村商店
電話五二番

謹賀新年
龍山漢江通八番地
疊商
砂田商店
電話四五八番

謹賀新年
龍山榮町
和洋菓子商
吉富支店
電話四五一番

謹賀新年
京城岡崎町
山本材木店
電話二四五番

謹賀新年
漢江通十一番地
陸軍御用達
馬木勇吉
電話三六四番

謹賀新年
龍山驛前
日の本旅館
電話七一二番

謹賀新年

（イロハ順）

釜山辨天町一丁目 大池旅館 電話(長)一九番、五一九番

同仲の町 岡野旅館 電話五八四番

同埋立新町 大市旅館 電話二七一番

同停車場前 つき旅館 電話九一四番

同埋立新町 難波旅館 電話(長)一七三番

同停車場前 鳴戸旅館 電話(長)三六一番

同高砂町 松本旅館 電話一〇二番

同埋立新町 松井旅館 電話八〇番

同埋立新町 荒井旅館 電話七四三番

謹賀新年
諸看板製作
ペンキ塗請負
京城太平通二丁目
齋藤看板店

平壤 板倉本店
朝鮮 總督府 高麗 精 人蔘 人蔘
京城 板倉支店

京城日報 新年號

第四

□□不思議なるは龍である□□

龍は佛典の聖者──天地陰陽二氣の昇降に依つて生ずるもの──最も縁故ある爬蟲類──古代に於て想像された一種の動物──希臘の神話──周以前の彫刻中に既に龍あり──印度人の空想──佛教の傳說中に現はれしナガ──日本の海神──

京城中學校敎諭 藤見睦治

不思議なるは龍である、彼は水に潜み天に上り、雲を起し雨を致す、彼は實に出沒測るべからざるものである、佛敎では龍は聖者に喩へられてをる、三國誌には『恐蛟龍得雲雨終非池中物也』とある書言故事には『乘勢變化曰蛟龍得雲雨』とある、王褒の聖主得賢臣頌には『世必有聖智之君而後有賢明之臣』故虎嘯而風冽、龍興而致雲』とある易乾卦には『雲從龍、風從虎聖人作而萬物覩』とある、昔から麟鳳龜龍は

■王者の嘉瑞と云

はれてをる、『龍駕』と云ひ『龍車』と云ひ『龍舟』と云ふ、皆天子の御召物である、龍頭鷁首の舟は龍舟のことである、『龍顏』といへば天子の御顏である、『逆鱗』と云へば天子の憤怒し給ふことである『其れ龍の蟲（爾雅の釋蟲に無足謂之豸、有足謂之蟲とある）たるや、狎れて騎るべからず、然れどもその喉下に逆鱗の徑尺なるあり若し人之にふる者あれば則必ず人を殺す、人主も亦逆鱗あり、說するもの能く人主の逆鱗にふることなければ則ち幾からん』と韓非子にある龍は天地陰陽二氣の昇降に依て生ずるものか、年經し白狐の化して生ずるものか、蛟虬蛇蚖蚰蜒の化して生ずるものか其何れにせよ

■龍の形狀は如何

龍の姿はよく神社佛閣の壁や天井に畫かれてある、龍は雲雨に乘じて居る、又其の姿は蛟虬蛇蚖蚰蜒に類似してをる、又全身鱗を以て被はれてをる、背には八十一枚の鱗が並んでをる、而も肢が四本ありそれに鋭い爪がある、頭には二つの耳と二本の角がある、口は深く裂けて鋭い牙をもつてをる、上唇には二本の長い髭がある、眼は大きく恐しい程光つてゐる、實に不思議な形狀である、本草綱目に『龍に九似あり、頭は駝に似、角は鹿に似、眼は鬼に似、耳は牛に似、項は蛇に似、腹は蜃に似、鱗は鯉に似、爪は鷹に似、掌は虎に似たり』とある誠にその通りである斯くの如く不思議なる動物が果して世界の

■何れかに生存し

してをるだらうか、何十萬と云ふ多くの動物の中には、隨分不思議なものもあるが、未だ斯の如き動物は發見されぬ、リンネが云つたやうに、動物は不變のもので神が作られてから少しも變化しないものとすれば、動物は過去と現在とに依つて異る筈がない、從つて今日存在せぬ龍は、過去に於ても存在せぬ譯である、然るに動物は決して不變のものではない、動植何れとも區別のつかぬやうな簡單下等の生物が、變化し進化して今日に至つたのである、從つて今日の動物は決して過去の動物ではない、されば今日龍が存在せぬにしても、過去に於て存在したかも知れぬ、動物の變化し進化したことは、地中に埋沒せる化石に依つて知ることが出來る、化石は過去の動物の遺骸である、化石の吾人に敎ふる所によれば、過去の動物には、今日既に絶滅して見る能はざる珍奇のものが少くない、龍に最も縁故の深い爬蟲類は兩棲類と共に

■太古代の石炭紀

第二紀の頃に表はれたのだ、魚類の表はれたは之より先の志留里亞紀である、鳥類及び獸類の表はれたは更に之より後中生代の、第三紀侏羅の頃である、爬蟲類の全盛を極めたは中生代であるが、此當時には隨分珍奇のものがあつた、蛇頸龍、牙龍、單角龍、劍龍、三脚龍、禽龍、翼手龍等は此の例で、之等の中には牙のあるものもあり、角のあるものもある、獸のやうな肢のあるものもあり、鳥の如く翼のあるものもある、併し龍に似たものは發見されぬ、即ち過去に於ても、龍は存在しなかつたのである、本草綱目に、龍に九似ありと書いてあるは、實に面白い言葉である、龍は實に種々なる

■動物の長所を集

めて大成した形狀である、併しながら、能く考へると、其處に疑問が起る、例へば牙と角が同時にあることである、元來牙は攻擊の武器である、兇暴殘忍な動物の所有である、獅子、虎、豹、豺狼等は此例である、彼等は鋭き牙、鋭き爪を以て、他の動物を屠り、其肉を食ふのである、勿論之等の爪牙は、同時に防禦の武器となるものではあるが、溫順怯懦な動物にはないものである溫順怯懦の動物は他の攻擊に對して自己を防禦するのみで、決して他を攻擊しない、角は牛、羊、山羊、鹿のやうに溫順怯懦なる動物の所有である、兇暴殘忍の動物にはないものである、是に由つて之を觀れば攻擊の武器たる牙と防禦の武器たる角とを併せ有する動物は未だ曾て發見せられぬ又かゝることは

■理論上も不必要

なことであると共に、殆んどあり得べからざることである、略同一の目的に向つて使用さるべき牙と角とを同樣に發達せしむることは、養分其他の關係に依ても不可能である、即ち一方が發達すれば一方を發達せしむることが出來ない、所謂二兎を追ふもの一兎をも得ざるは自然の法則である、元來人の性は先づ外に向ふものである、人は先づ天地の偉大なるに驚き、覆載間の秩序整然たり或は變幻出沒極りなきを怪しみ、其原理を發見しなければ止まず、人智の進まぬ古代に於ては、之等天地の事物現象を適當に解釋することが出來なかつた、彼等は之を擬人的に解釋し神靈不可思議なるものゝ所爲とした、彼等は雷鳴の現象を以て、鬼の如きものが、太鼓を打つものとして解釋した、一天俄に黑雲を以て蔽はれ、雨降り、風起り、海水の高く卷き上げらるゝを見て、彼等は此れが解釋に苦んだ、彼等は此に龍なる神靈不可思議のものを想像して、之が所爲としたのである、龍は斯くの如く人智の進まぬ

■古代に於て想像

されたる一種の動物である、それ蛟虬、蛇、蚖、蚰蜒の化したるものとし、白狐の化したるものとし、或は陰陽二氣の昇降に依て生ずるものとするは、國民に依り時代による空想の差異に原因するものであらう、希臘の神話にはフエニキアの王子カドモスが龍を退治したることがある、西洋に於ては、龍は單に凶暴なる動物とせられてあるにすぎぬ、然るに東洋に於ては、龍を以て或は王者の嘉瑞とし、或は聖者にたとへ、或は神靈とし、神聖にして冒すべからざるものとして崇拜してをる、就中、支那は最も龍を尊崇する國である、併し彼の支那學者博士ヒルト（Hirth）は、周以前の古彫刻中に、龍の形を見出す能はざる事實から、支那の龍に關する想像は、印度より傳來したものと云うてをる、印度は此空想の最も早く現はれた國で、佛敎の傳說中に『なが』と云ふ龍神がある、日本に於て海神と稱するものも、龍神即ち龍王である

■彦火々出見尊が

訪ねた龍宮は即ち此龍神の宮殿である、浦島太郎の訪ねた龍宮も、即ち此龍神の宮殿である、龍に關する空想は、國民に依つて多少の差異がある、此等の空想は、枝から枝を生じ時代に依つて變化する、龍に關する說明解釋が區々であるは當然である龍の形態習性が、動物學上の理論に合致せぬは當然である、古往今來龍を見たものゝないは更に當然である

山元春擧筆

工藤土地調査局調理課長試筆

謹賀新年

時計材料器械 貴金屬製品 眼鏡類卸商

京城黃金町一丁目

植村支店

山岡龜太郎

電話一三四八番 振替京城三一番

謹賀新年

京城本町二丁目

中村再造

電話三六五番

謹賀新年

京城南山町二丁目

山口太兵衛

長電話七六二番

謹賀新年

歳暮商出中は多大の御引立を蒙り意外の盛況裡に終局を告げ申候段全く各位の御同情の賜と深く感銘仕り茲に店員一同厚く御禮申上候

就て一月二日午前三時より例年の通り初賣仕り年頭の御祝儀の驗まで聊か粗景差上申候間舊に倍し一層の御引立を以て賑々敷御光來御用命の程奉願上候 敬白

京城本町二丁目

山口呉服店

電話長九番・三九番 振替口座京城九番

賀正

始政五年記念共進會に於て金牌銀牌受領

貴金屬製作 時計眼鏡商

仁川本町

糸岐商店

謹賀新年

營業品目

汽罐及汽機
吸入瓦斯發動機
無點火石油發動機
ガスリン發動機
各種喞筒機
搗礦機及碎機
其他各種鑛山機械
各種精米機類
各種製粉機
各種製綿機
各種電氣用品
各種傳導機具
其他諸機械

京城黃金町二丁目六七番

稻葉商會

電話一八七六番

謹賀新年

白米、清酒、醬油、薪炭

龍山鐵道構內

すぎ屋本店

電話五〇番

謹賀新年

龍山京町

川崎永一

電話五五七番

謹賀新年

水飴 各種

龍山元町壹丁目

山田製飴所

電話七一九番

謹賀新年

花あられ 掛物類 卸問屋

龍山元町二丁目

眞木商店

電話六壹貳番

謹賀新年

㊂ 醬油、白鶴、澤龜 光武、ビール

卸小賣

龍山

松屋商店

電話六六壹番

謹賀新年

新龍山三角地

むしぶろ

謹賀新年

海産物 米穀乾物商

新龍山三角地前

香椎商店

電話四〇五番 振替京城一七一二番

謹賀新年

龍山漢江通

三巴商會支店

電話五六四番

謹賀新年

請負業

本店 龍山榮町 支店 京城旭町壹丁目

佐々木淸一郎

（電話五壹八番）（電話貳五六參番）

謹賀新年

吳服京染悉皆商 並ニ白生地一式 西陣御召專賣

京都 龍山榮町

平田屋出張店

電話七〇參番

謹賀新年

㊂ 龍山驛前

丸三酒場

電話三〇三番 振替京城二九六二番

謹賀新年

清酒 花の君 森正宗

龍山驛前

森下酒店

電話壹〇貳番

謹賀新年

軍隊用品一式

龍山漢江通八番地

安藤誠一

電話五參六番

京城小品

京城に來て一年經た。一年には十四五日足りないけれど兎に角京城での四季を過した。是れは其間の氣紛れな思ひ出である。（四、一二、二九）　鷺鬚公

漢江の結氷

大銀杏の枯枝が晴れ渡つた空にクッキリ描き出されてる。腹の白い鵲がギャアと啼いてはキョトンとした風をして枝の間に羽音を立てる。下駄、靴、車の轍、犬の足跡が道路に凸凹の跡を付けた儘凍てついてる。

ピリ／＼する程寒い。

轟ツと云ふ地響きがして驀進して來た釜山からの急行に飛乘つたかと思ふと直に汽笛が鳴つて動き出す。列車は漢江の鐵橋に掛る。大江の結氷した感じは金屬と金屬とを打合せる時の樣に鋭い。小山の樣な荷を積んだ大八車がノロ／＼と氷の上を渡つて行く樣子は非常に悠暢した感じを與へる。鷺梁津の渡頭から其對岸の龍山の渡頭にかけて白衣の朝鮮人が點綴してる。其れが鋭い結氷と鈍い大八車との兩端の感じを繋ぎあつてる樣にも感せられる。江岸の枯れた楊柳が漢詩の感じそつくりだ。

温突生活

『涙が、涙が、まあどうでせう。』温突に入つてゐらつしたお婆樣が袖口で眼を拭き乍らさう被仰る。『昨年は洪水で一杯の水だつたものですから、茅にみんな泥がついてそりや困るんですよ。其れに何だか恁う能く乾いてゐないと見えましてね、燃えが惡いんで御坐いますよ。長いのになると一間の餘もあるでせう。え、切てたんかあるものですか、一々解して折らなくちやなりませぬの其れも茅許りならまだいゝんですけど、ね、鐵炎が入つてるものですから、是れ御覧んなさい引ツ掻かれて……。』

元氣なお婆樣の手の甲には血の滲み出る程な掠り傷がある。其れを温突の阿の金盥に浸しては、バサ／＼に乾いたものに滲み透つて行く水氣の樣な曖昧をジッと味はつてらツしやる。

『眞實ですわね、今年の茅はどうして恁う惡いんでせう。其癖お高値いんですものね。昨年のよりは束も小さいのに十把で……。』

温突の此方の隅の長火鉢の上で頻りにグツ／＼言つてる鍋のもの、世話をし乍ら小母樣が調子を合せる。『まあ、此暖い事、どうでせう、槃ちやんのお裾纏がポカ／＼して。』

手を袂口の座蒲團の下に入れてお婆樣はさう言ひ乍らも、お父樣に連れられて京城に行つた小供達の事を思つてた。遠くで汽車が鐵橋を渡る音がして來る。

スケート

『まあ大ちやん何處に行つてたの恁に遲くなる迄？』お母樣の訊問が無くても其れ丈けは話さなくちやあ居られないと云ふ樣な調子で、鼻頭と耳朶を眞ツ赤にした大ちやんは其處に突立つた儘『僕ね、何處かの鮮勞働者が氷を斬つてるのを見てたらね、鐵道の人がスケートでツルツルーツて辷つて來てね、そりや可笑しいんだもの辷つたり轉んだり……。』

『何でせうまあ其樣子は、息をはづませて、寒かつたでせうが、風邪でも引くと大變ぢやないか、まあ此手ツたら恰然金火箸の樣だ。』

ムツとする程暖つてる温突の中に連れ込まれた大ちやんは此上に何誰かに小言でも言はれるのかと思つた樣にキョトンとしてる。

『氷のね厚さに厚いのを鋸でゴッシン／＼研つてね擔軍に積むんだよ。彼れは皆西氷庫の氷室に藏つとくんだつてね。』

是れ程興味ある事象に對して誰れも相手にしないのが寧ろ不思議でならないと云ふ風に少年は其儘三角棚に載せて置いた雜囊を取りに行つた少年の頭腦は雜囊の裡のノートと色鉛筆とで占領せられてゐた。

白楊の芽

氷の解けてしまつた頃、中島君は朴書房と小童を相手に白楊の枝を下した。五六尺から一丈位の長さのを三十本宛束にしては漢江の砂ツ原に運ばせた。そして其れを一本宛い加減の間を隔いて砂ツ原に挿した。若荷畑から白菜の床からも●も●何處も其處のお構ひなく洪水が押寄せて來た、水の引いた後には畑中萬遍無く泥が一寸位の厚さに殘されてゐた。丁度江岸の白楊がボーッと緑に煙り掛けた頃であつた。砂ツ原に挿した白楊も矢張さ緑りや褐色に芽を吹き出した。桃山の灯が川向ふに華やぎ初めて來た。

清涼里

よくさうした小さな郊外散策をしたがつてゐながら容易に思ふ事が實現されなかつた。途中迄行き掛けては氣が變つて他の方に逸れたりした事もあつた。

電車が並木道に掛ると左右の畑から遠く霞んだ山影から總てが雜沓した市中の氣分を一掃してくれた。並樹の綠があらゆる感覺を搖り動かし搖り動かしゝて到底も本など讀ましてくれなかつた。

『明日はセルと著替へよう。』今更らしくさう思つて暑ぼつたいスコッチのホームスパンを顧みさせられた。此日の事を思ひ出させられては其後木蔭が戀しくなる頃迄幾度となく閔妃の陵の側の森の中に讀みに行つた。遠くの小流れからは朝鮮人の婦人の高い話聲が其洗濯棒の音と一緒に響いて來た。松に混つた樸や楢やそんな種類の樹の頑丈らしい幹の樣子や枝の具合などが頗る興味を與へてくれた。

牛耳洞

南大門丈けで乘せた客で一杯になつてしまつて、龍山で待つてた人は其儘後廻しにされた程素破らしい景氣であつた。何しろ京城にゐて牛耳洞の花を見ない者は共に朝鮮の春を語るべからずと云つた調子なのだ。お婆樣と子供が三人と其お母樣と中島君との一行七人が龍山の待合室で一列車待たされてやつと乘つた列車も殆んど滿員であつた。向島や飛鳥山の噂などをしてる意氣な人達さへ餘り目立たない程花見列車の群集は各自にいゝ加減な高い調子を持てた。牛耳洞驛から山迄の田圃道、山道が汽車の著く度に長い／＼行列を作つて白や色物のパラソルが春らしい氣持を持たせた。可成りの道程なんだけど恁うして話し乍らブラ／＼行くのには子供さへ居なければ丁度い位である。

山の麓、溪流を挾さんで常盤木や楊柳の間に咲いた花よりも寧ろ此雜沓した上にビールや辨當やのビラで俗惡化した遊園地と相對して、と云ふよりは其俗惡を下瞰して高踏的に眞ツ黑に屹立した北漢山の峻嚴な山骨の與へる感じの方が快い。牛耳洞の花は北漢山の雄姿を眺め得ればこそ稱するに足ると言ふ人があつたら予は直ちに贊意を表するであらうと思ふ。

春川街道

『まるで活動寫眞の樣だ。』と思つたり話し合つたりしながら清涼里、金谷の並木道を自動車で駛走したのは初夏の氣心ゆく許り山河に滿ちた候であつた。北漢江の流れ悠揚たる、江岸の緑滴るが如き、鮮峨峠のあたり山間の興趣限りなき——總て新しいと云ふ事は快いものと感せられざるを得ない旅路であつた。

雨で豫定の行動がとれなかつたが雨の爲めに益々山間の興趣は添へられ、綠樹の蔭の老鶯も風情を加へた。自動車を乘せて渡す渡し船、雨中を衝いて駛る自動車。小歇を幸ひ自動車を停めて江畔の芝生に行厨を開いた味はひは決して京城の市中では味はへぬ味はひであつた。

徂春

萬苑櫻臺楊柳新なり、菱歌清唱春に勝へず……。時は暮れ行く春よりぞ、また短きは無かるらん、恨みは友の別れより更に長きはなかるらん——心から恁う朗吟してゐた時が懷しく思はれる程に時が早く立つて行く。急遽しい毎日の仕事に追はれ追はれて冬去り春亦徂くのにも氣が付かないでゐる其追はれ追はれる一日の仕事を終へて薄暮歸路に就いて水標橋畔にでも差しかゝると不圖しも歩みを停めては逝く水に影を落した楊柳のあたりに追る薄暮のかすかな歩みに見入りは春に勝へぬ行歌吹笛に徂く春を思はせられる。

ポーッと烟る樣に黄昏れてゆく夕靄の裡に街燈や軒燈が絹にでも包んだ樣にホンノリと趣きを添へる。其中を香も立てない謎讃輪の車を驅る滑洒たる妓生の風姿が奈何に漢詩裡の人らしい氣を起させるであらう。

[illegible]には能く行李の底から唐詩選などを抽出しては聲を出して讀んだりもした。母國の山河に在つては餘りに深く感じ得なかつた漢詩が京城の市街や近郊に生活して見ると宛然今自分の居る附近を舞臺としてゞも詠まれたものかと思ふ樣にシックリと當て篏まつて來る。そして若しも支那の都會や田園に在れば尙更其感じを強うし得るものだらうなど思つたりする。

眞夏

誰が家の玉笛ぞ暗に聲を飛ばし散じて春風に入つて洛陽に滿つ此夜曲中折柳を聞く何人か故園の情を起さゞらん

玄界を北にした港町に生れ、玄界を南にした港町に生活を初めた賜物として、夏になれば日を缺かさず海に浴する事が出來たのに、海に遠い京城の生活に還つて來た此夏は到頭一回も浩蕩萬里の氣を味ふ機會に接し得なかつた。灰色になつて流れ落つる膏汗を拭いては氷を嚙んで充分に眞夏の氣分を味はふ事を得たのも亦一興と見れば見得る。

將歲暮

瓦斯の燃える香と時計の針の響、火鉢の火も消えて咽喉を濕すべき湯も冷め果てた。年玆に暮れんとして思ひ呆無し。不圖思ひ出したのは晶子の歌である。新年の餅に尤適のもの歟。

新らしき我が生涯を築くとて心に立てし圓柱かな。

謹賀新年 （いろは順）
幾野醫院
原醫院
龍山齒科醫院
佐藤病院
十字病院

謹賀新年
龍山産婆會（いろは順）
伊藤フユ子
石井シゲ子
堀川セイ子
尾崎千代子
渡邊うゑら子
萱野タキノ子
中村ミヤ子
栗田トヨ子
椋橋ミネ子
越塲玉枝子
澤入ツマ子
相模瀧子
佐藤アサ子
三浦美代子
莊野キヌ子
森山朝野子

謹賀新年
龍山驛前
山崎寫眞館
電話六一六番

謹賀新年
龍山元町二丁目
石橋寫眞部
電話六〇四番

謹賀新年
龍山漢江通三角地前
寫眞師 畠田玉川堂
電話參五九番

謹賀新年
朝鮮銀行釜山出張所
第一銀行釜山支店
慶尚農工銀行草梁支店
慶南銀行本店
釜山商業銀行
十八銀行釜山支店
百三十銀行釜山支店

謹賀新年
釜山幸町二丁目
合資會社小野商會内
合名會社鈴木商店鹽業部
釜山出張所
電話二五七番

謹賀新年
釜山船具商組合（いろは順）
釜山本町一丁目 稻木丈一商店 電話五一二番
釜山佐藤町十六番地 橋本商店 電話六七三番
釜山南濱町一丁目 濱田規商店 電話七〇六番
釜山南濱町一丁目 河野卯商店 電話五一六番
釜山南濱町二丁目 中村久藏商店 電話九二八番
釜山南濱町一丁目 福島源次郎商店 電話九五九番
釜山本町一丁目 福島喜三郎商店 電話二一八番

謹賀新年
平安南道平壤地方金融組合
組合長 鄭在命
理事 小山照司

謹賀新年
醬油味噌
鎭南浦明峽町
藤本釀造所
電話一一八番

謹賀新年
大同江沿岸貨客運送業
鎭南浦汽船合資會社
電話二五五番

賀正
載寧鐵山
西崎鑛業所

謹賀新年
鎭南浦龍井町
齋藤精米所
電話一四五番

謹賀新年
藥種賣藥
醫療器械
各種問屋
鎭南浦三和町
大西十字堂藥店
電話二一八番

越後大評定

第九十一席 早川貞水口演

惡人の密談

其より關根彌二郎、庭の方へ廻る、長廊下があるから、其長廊下へ今上からうとすると、キユッ〱と音がする、そこで迂濶に歩けぬに依て、暗い座敷へ入つて、螢光のある方を見て居ります『流石は宜く工夫したものだ、密談いたす時に、何人が來て此廊下へ掛りさへすれば、音が致すに依て、早くも密談を止める用意のため、斯様に廊下に音のするやう張りある、餘程巧に大工に申付て拵へたと見える惡事を働くに、是程心を用るか』と先生頻に考へて居る歩きやうが悪いと、早く覺られ用意なされては困る、如何いたさんかと思て居ると一人の姿がスーッと見る彌二郎歩くと音がするが今來る奴は音がしない容子を見ると擦り足で來る尤も婦人のやうでありますが『ハヽア是は足を擦つて歩けば、此廊下は音のせぬものと見える』と、武勇の極意に渡りました彌二郎先生、早くも其足の踏方を御覺りになりました、見ると女が今御銚子を取りに參つたものと見えて、徳利二本ほど、御盆に載せまして、廊下を傳ひ來るから暗い座敷からスッと出た『ハーッ』と驚くのを『騒ぐに及ばぬ、其方は何者だ 紅『ハイ私は紅梅と申ます』彌『ナニ紅梅と申するか、三階には小栗美作か居るか 紅『御主人は御居でゝ御坐います』彌『一同の者も集會いたし居るか 紅『ハイ、皆様が居らつしやるので御坐います 彌『左様か、大きな聲をしては不可ぬぞ、其方だけは許してやるから早く行け 紅『ハイ 彌『酒宴を催ほして居るのぢやな 紅『ハイ左様で御坐います、御話を遊ばして、御酒を召し上つて居らつしやるので御坐います 彌『然うか、分かつた行け 紅『ハイ』後から彌二郎そと跟いて來る、女の事で御坐いますから一足ふみ出すと『アレーッ』と聲を揚げる『エッ』ビシッ、聲を揚げたかと思ふと、早くも横に挪はれ、此紅梅の首はパッタリ其處へ、全身は血潮淋漓と迸る、血振ひ致したるのは京都粟田口の住人、日本總御番鍛冶、後鳥羽天皇の綸旨を蒙り、從五位大隅椽の頭久國と名乘程の名刀二尺六寸餘物が良くて隨が冴えて居るから耐らぬ、そこで斬つた屍骸を傍の暗い座敷へ置き、梯子段を登らうとすると、上から何人か降りて來る、容子を窺ふと、獨語を云つて辻三平が、『紅梅殿、どうなされた、餘り遅いでは御坐らぬか、御急ぎであるから早く來なくては困る、紅梅殿でないか』と人影が見えたから、近寄ると薄暗いが關根彌二郎と分つた、愕然して『アレーッ』逃げやうとするやつを『エイッ』、後から唐竹割、辻三平まつ二つになつて、左右へバサッと倒れる、此のとき天野利左衛門、鶴見善十郎の兩人が 利『鶴見 善『何事で御座る天野氏 利『まだ辻は見えぬか 善『まだまゐらぬ 利『何を致して居るであらう 善『ヱー彼は醉ふと直ぐに寝て了ふから、廊下にでも寝て居るかも知れぬ 利『起して入來しやい。

一月六日九星 舊十二月二日壬寅 本命三碧東南先勝

▲三碧● 摂慣な事ぜんとす踊て新事見合 坤の方は吉 啓開業▲四緑● 信用を増し轉居 開業入門 名弘求職命談婚談定期業學 皆吉▲五黄● 何となく落附ぬ日 新事手控 萬事は吉 甚丁寧にせらるべし▲六白● 慌氣味の事有日 新事手控 萬事は吉倫 散財な防ぐべし▲七赤● 間のぬけた事有日 新事手控 萬事は吉 婦人のせわな爲すあれ▲八白● 出め事のかぬ事有日 新事手控萬事は吉 又事な防ぐべし▲九紫● 好事破れの日 轉居開業入學名弘 求職命件婚談試驗を受る等萬吉▲一白● 清淨の日 轉居開業入學命件求職婚姻出職學校病院の事を圖る等萬吉▲二黒● 〆括のつかぬ事有日 新事手控萬事は吉 一切の賭事せぬがよし

一月七日九星 舊十一月三日癸卯 本命四緑巽南友引

▲四緑● 空想の事有日 新事 見合北方は吉 啓開業▲五黄● 大困の事有日 新事手控 萬事は吉 貿物仕入に用心の事▲六白● 損な 五分五分の日と離して掛目の方吉萬事 依然は妨なし▲七赤● 水臭き事多き日 新事手控 萬事は吉 一切のせわせぬがよし▲八白● 引諸損の事有日 新事手控 常の事は吉 保證紹介事を禁ず▲九紫● 上進の日 轉居入學命件名弘求職 出張嫁娶入電氣應用業等 萬吉▲一白● 大當りの日 轉居旅行入門名弘求職命件婚姻先を見極たる商事等萬吉▲二黒● 爭亂を受て閉口せんとす 新事手控 萬事は妨なし▲三碧● 同情多く物の成立する事を計る等萬吉 道で有女子は一層よき事有向人來る

賀正
スタンダード石油會社
廣江商會代理店
日清生命保險會社
金物商
大石長作商店
振替口座京城一七〇三

謹賀新年
米穀商
高村甚一
忠州本町

謹賀新年
忠州錦町末廣館内
一奴 政奴 ツバメ 一二三 愛子 照子 二三子 三枝

謹賀新年
漢湖農工銀行忠州支店
高野爲心 佐伯千隆 高橋晃市 爲廣文雄 金康鉉 張興準 佐野爵義

賀正
帝國生命保險會社
土佐紙合資會社
朝鮮煙草株式會社
代理店
萬小間物商
忠州 井上肇商店

謹賀新年
呉服太物商
水野呉服店
忠州本町

賀正
陸軍御用達
諸雜貨商
古道龜松
忠州吾妻町

賀正
御料理
七福
忠州錦町

賀正
忠北館主
御旅館
福山忠太郎
忠州本町

謹賀新年
糀搗業
龍山元町二丁目
龍山精米所分工場
執行猪太郎
電話三六番

謹賀新年
土木建築請負業
龍山老松町
藤田安之進
外組員一同
電話五五二番

謹賀新年
龍山元町二丁目
東屋洋品店
電話一參二番

賀正
龍山質屋組合

謹賀新年
浪板平板洋鐵類銃砲火藥販賣免許
土木建築用金具商
龍山榮町
毛利辰二郎商店
電話(長)一五三番
振替口座京城六九〇番

謹賀新年
くすり化粧品商
總督府度量衡器委托販賣所
椋橋八十吉
龍山榮町二十七番地
電話三一六番

謹賀新年
共進會にて銀牌受領の煉羊羹は
諸官衙御用達
花月軒
龍山元町二丁目
電話百〇四

謹賀新年
大
龍山元町一丁目
味噌
堀田製造所
電話一五八番

謹賀新年
京義線沙里院
諸官衙御用達
石版和洋紙各種文具類販賣
沙里院印刷所
所主 安田靜雄

謹賀新年
京義線沙里院
米雜穀貿易委托賣買商
安井商店
朝鮮黄海道載寧邑内
安井商店出張所

米雜穀委托賣買商
水谷太賢

謹賀新年
京義線沙里院
代書業
坂本圓
通譯
任賢摸

謹賀新年
京義線沙里院俱樂部前
代書業
竹馬己代太

謹賀新年
京義線沙里院
米雜穀委托賣買業
北村勇次郎
電話(キ又は〇き)

謹賀新年
京義線沙里院
材木建築請負商
洋家具建具製調
渡邊兵吉

謹賀新年
京義線沙里院
米雜穀海産物並委托賣買
松本良吉商店

謹賀新年
京義線沙里院
齋藤病院
同 齒科部
院長正七位 齋藤信甫

謹賀新年
日鮮向陶磁器製造問屋
釜山本町三丁目
分
森虎商店
電話四六七番
振替京城六七四番

賀正
海産物
米雜穀
魚肥料
小玉玄三郎商店
本店 釜山本町一丁目電話七一六番
支店 釜山草梁第二區電話五〇三番

賀正
釜山鎮
農進社主
佐谷瀧太郎

謹賀新年
N
獵銃 獵具 火藥類
洋具 馬具 擊劍道具類
釜山大廳町二丁目
東亞銃砲火藥店
電話一六一番
振替京城一五三番

謹賀新年
釜山辨天町
飯田呉服店
電話一五三番

賀正
土木
建築
請負
專土木建築用内外材料
滿江産紅松原木製材販賣
釜山西高砂町三ノ二
三谷愛治郎
電話六七番

謹賀新年
釜山本町三丁目
綿糸布商
久
青見洋行
電話二〇〇番
振替京城一八〇〇番

謹賀新年
土木建築請負業
釜山埋立新町
吉崎助三郎
電話(長)七〇八番

謹賀新年
植林經營成績金牌受領
金弘祚
蔚山郡下廂面伴鷗里

謹賀新年
京義線沙里院
織居自動車部

謹賀新年
慶南蔚山本府市場通
御旅館 日の出館
懇切丁寧を旨とし
御大典記念として宿料二割引

謹賀新年
朝郵汽船荷客取扱所
岡田回漕部
米穀雜貨商
京城日報取扱
岡田商店
蔚山長生浦

謹賀新年
東洋捕鯨會社
蔚山事業場
吉津權三郎

謹賀新年
醫療藥品 有名賣藥 販賣
公醫 菊地淺太郎
平野醫院出張所 蔚山郡方魚津

謹賀新年
密陽郡廳
郡守 中泰茂
菅森峰太郎
澤田一丸

謹賀新年
密陽驛前 磯谷鐘之助
密陽城內 加藤泰次郎

謹賀新年
森田屋旅館
京釜線龜浦驛

謹賀新年
朝鮮新安州驛前
旅館 安州館
海産物問屋部 電信略號(アン)又は(ア)

謹賀新年
朝鮮平安南道新安州
大倉朝鮮電氣工務所

謹賀新年
平安南道价川
三井价川鐵山

謹賀新年
土木建築請負業
本壤櫻町
子川仲義

謹賀新年
辯護士 平壤壽町 森肇 電話六三番
辯護士 平壤旭町 森岡二三 電話五〇三番
辯護士 平壤壽町 瀧本理 電話三七番

謹賀新年
朝鮮黃海道黃州
朝鮮興業株式會社支店
小林靜

謹賀新年
漢城鑛業會社電力部
支配人 石隈信乃雄
大同江岸柳野桐

謹賀新年
龍山漢江通二丁目
酒類食料品 日用雜貨 魚釣道具
上村商店

謹賀新年
龍山郵便局前
東京亭
電話四〇三番

謹賀新年
龍山漢江通十三番地
森藥房

謹賀新年
京城府漢江通十三番地
陶器商 奥川商店
電話五〇一番

謹賀新年
龍山漢江通十一番地
米穀並に雜貨商 酒井商店
電話六一一番

謹賀新年
龍山驛前
旭屋待合所
電話七二二番

謹賀新年
共進會褒狀受領
清酒 朝鮮一 釀造元
京城府元町一丁目
畠山酒造場
電話一五四番

謹賀新年
壽し會席御料理仕出し
龍山驛前
三福
電話四三八番

謹賀新年
ブラシ毛判製造業
龍山驛前
岩崎商會

謹賀新年
書籍文房具店
龍山漢江通十三番地
龍山堂
電話四五五番

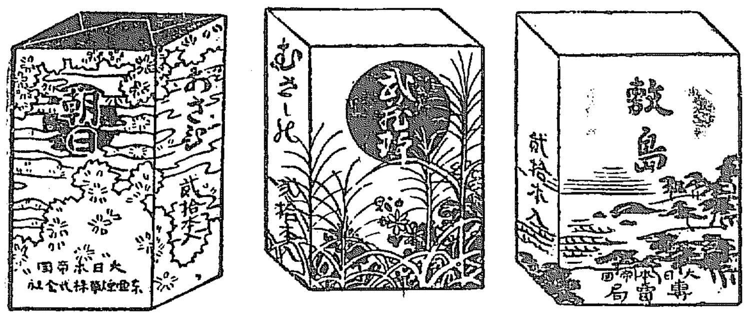
謹賀新年
平壤郵便局
八木辰馬
稻塚英太郎

謹賀新年
和洋會席御料理
第二七星館
電話三〇一番
歌舞伎座

謹賀新年
平壤櫻町
西洋料理 武藏野
電話四三四番

謹賀新年
諸紙帳簿文房具 各新聞雜誌大取次
田中榮太郎商店
電話二八 振替京城二四〇九番

謹賀新年



平壤
東亞煙草株式會社

謹賀新年
京城本町一丁目裏
産婆 堀越直子
電話一〇四八番

謹賀新年
京城旭町一丁目
齋藤英壽
電話一四一四番

銃砲製造及 銃臺並自轉車修繕部 クレー製造
京城旭町一丁目
瀧川壽太次郎
電話二八五三番

謹賀新年
平壤土木局出張所
掛札季藏

謹賀新年
京城大和町一丁目五一
大和葬儀舍
新炭 石炭 煉炭 タドン コークス
商 生田紋藏
電話二四三八番

謹賀新年
京城本町三丁目
齒科醫 中村安子
電話一五八三番

謹賀新年
忠州學校組合
管理者 宇野佐平
忠州本町

謹賀新年
星光館旅館
館主 星野竹次
忠州錦町

謹賀新年
新年宴會は特に勉强仕候
會席御料理
京城旭町一丁目
壽美屋
電話一三四三番

謹賀新年
新年宴會は特別勉强仕候
會席御料理
京城壽町三丁目
有明樓
電話七三八番

謹賀新年
會席御料理
京城旭町二丁目
電話一一〇〇番

謹賀新年
板硝子 ストーブ
京城本町二丁目
岩見商店
長電話二二三番

謹賀新年
李王職 諸官衙 御用
京城旭町一丁目
金川靴店
電話二〇六〇番

謹賀新年
京城南米倉町
三好和三郎
電話一二九番

謹賀新年
京城壽町三丁目
松金
電話六八六番

謹賀新年
仁川宮町一丁目
濟物精米所
電話八二〇番